

# 真庭市スポーツ推進計画

## 資料編

## 資 料 編 目 次

1. 真庭市スポーツ推進審議会委員名簿
2. 計画策定経過
3. 成果指標一覧
4. スポーツライフ調査結果

### 真庭市スポーツ推進審議会委員名簿

番号	氏 名	所 属	役職等	備 考
1	長 尾 政 則	真庭市スポーツ協会	会長	会長
2	高 岡 敦 史	岡山大学教育学研究科	准教授	副会長
3	成 田 邦 朗	真庭市スポーツ少年団	本部長	
4	後 安 藤 江	(一財) スポーツ振興財団	理事	
5	炭 山 優 子	真庭スポーツ推進委員会	女性部長	
6	前 田 江 美	スポーツ・レクリエーション倶楽部くせ	事務局	
7	松 下 誠	しらうめスポーツクラブ	事務局	
8	志 田 淳	英賀スポーツクラブ	会長	
9	青 野 雅 裕	高等学校体育連盟	代表者	
10	三 村 公 一	中学校体育連盟	支部長	
11	坂 江 至	小学校体育連盟	理事長	
12	國 米 佐 智 夫	競技者代表		
13	山 本 旨 妙	競技者代表		
14	安 藤 紀 子	真庭市社会福祉協議会	事務局次長	
15	江 口 祥 彦	福祉課	課長	
16	梶 岡 亘 子	健康推進課	課長	
17	石 田 明 義	子育て支援課	課長	
18	小 谷 千 寿	高齢者支援課	課長	
19	橋 本 祐 一	真庭市教育委員会 学校教育課	課長	

任期：令和2年6月1日から令和4年3月31日まで

## 計画策定経過

時期	内容
令和元年 12月～	真庭市スポーツライフ調査実施 【期間】 令和元年12月～令和2年1月 ・ 一般市民対象 ・ 障がいのある人対象 ・ 小・中・高校生対象
令和2年 7月17日(金)	<b>令和2年度 第1回真庭市スポーツ推進審議会</b> ・ 委員委嘱 会長、副会長の選出 ・ 真庭市スポーツ推進計画について(諮問) ・ 真庭市スポーツ推進計画の策定について ①方向性の確認 ②スポーツライフ調査結果報告
7月～	第2次総合計画市民ワークショップ(5回) 【期間】 令和2年7月～令和2年8月
8月～	関係団体等ヒアリング実施 【期間】 令和2年8月～令和2年10月
12月3日(木)	<b>令和2年度 第2回真庭市スポーツ推進審議会</b> ・ 真庭市スポーツ推進計画(素案)について
令和3年 1月19日(火)	<b>令和2年度 第3回真庭市スポーツ推進審議会</b> ・ 真庭市スポーツ推進計画(原案)について
1月28日(木)	令和3年第1回真庭市教育委員会 協議会 ・ 真庭市スポーツ推進計画(案)に対する意見について(照会)
1月～	真庭市スポーツ推進計画(案)に対する意見募集(パブリックコメント) 【期間】 令和3年1月29日(金)～令和3年2月19日(金)
2月15日(月)	令和3年第2回真庭市教育委員会 定例会 ・ 真庭市スポーツ推進計画(案)に対する意見について(回答)
3月9日(火)	<b>令和2年度 第4回真庭市スポーツ推進審議会</b> ・ 真庭市スポーツ推進計画(最終案)について
3月15日(月)	真庭市スポーツ推進審議会会長から真庭市長に答申 ・ 真庭市スポーツ推進計画(案)について(答申)



成果指標一覧

【基本目標 1】スポーツ参画人口の拡大

成果指標	指標の説明	データ出典	現状値	単位	目標値	目標値の考え方
市内スポーツイベント参加者数	市や市が事務局を持つイベント、また、各地域において継続して実施しているイベントの中で市が補助金を交付しているイベントの参加者数	市スポーツ・文化振興課資料	4,672	人	4,800	人口ビジョンによる市の人口減少を加味した上で約10%の増加を目指す。
市のスポーツ施設年間利用者数	公共スポーツ施設の年間利用者数	市スポーツ・文化振興課資料	332,403	人	353,000	市内各地域のスポーツ施設年間利用者数目標値の合計値。
成人の週1回以上のスポーツ実施率	一般市民向けアンケートで「運動やスポーツ、レクリエーション活動を1週間に1回程度以上」と回答した人の割合	令和元年度真庭市スポーツライフ調査（一般市民対象）	25	%	50程度	県や県内他市の目標と同程度とした。
障がい者（成人）の週1回以上のスポーツ実施率	障がい者向けアンケートで「運動やスポーツ、レクリエーション活動を1週間に1回程度以上」と回答した人の割合	令和元年度真庭市スポーツライフ調査（障がい者対象）	24	%	40程度	国の目標と同値とした。
高齢者の週1回以上のスポーツ実施率	一般市民向けアンケートで「運動やスポーツ、レクリエーション活動を1週間に1回程度以上」と回答した60代以上の人の割合	令和元年度真庭市スポーツライフ調査（一般市民対象）	25	%	50程度	成人の週1回以上のスポーツ実施率と同値とした。

【基本目標 2】スポーツによる共生社会や地域活性化の実現

成果指標	指標の説明	データ出典	現状値	単位	目標値	目標値の考え方
ささえるスポーツの実施割合	一般市民向けアンケートで「親族や地域の人たちのスポーツへの関わりでまったく関わりがない」と回答した人以外の割合	令和元年度真庭市スポーツライフ調査（一般市民対象）	37	%	50程度	半数の市民のかかわりを目指す。
市北部スポーツ施設年間利用者数（蒜山、湯原、美甘）	蒜山、湯原、美甘地域の公共スポーツ施設の年間利用者数	市スポーツ・文化振興課資料	53,362	人	58,000	全国人口推計の全国人口減少を加味した上で約10%の増加を目指す。
市中部スポーツ施設年間利用者数（勝山、久世）	勝山、久世地域の公共スポーツ施設の年間利用者数	市スポーツ・文化振興課資料	133,327	人	142,000	人口ビジョンによる勝山、久世地域の人口減少を加味した上で約10%の増加を目指す。
市南部スポーツ施設年間利用者数（落合、北房）	落合、北房地域地域の公共スポーツ施設の年間利用者数	市スポーツ・文化振興課資料	145,714	人	153,000	人口ビジョンによる落合、北房地域の人口減少を加味した上で約10%の増加を目指す。
パラスポーツの認知度	一般市民向けアンケートで「パラスポーツについて知っている」と回答した人の割合	令和元年度真庭市スポーツライフ調査（一般市民対象）	41	%	60程度	アンケート結果で「関心はあるが、よく知らない」が40%程度いるため、その半分程度の人の認知度向上を目指す。
働き盛り世代の週1回以上のスポーツ実施率	一般市民向けアンケートで「運動やスポーツ、レクリエーション活動を1週間に1回程度以上」と回答した20代～50代の人の割合	令和元年度真庭市スポーツライフ調査（一般市民対象）	24	%	50程度	成人の週1回以上のスポーツ実施率と同値とした。
成人女性の週1回以上のスポーツ実施率	一般市民向けアンケートで「運動やスポーツ、レクリエーション活動を1週間に1回程度以上」と回答した女性の割合	令和元年度真庭市スポーツライフ調査（一般市民対象）	24	%	50程度	成人の週1回以上のスポーツ実施率と同値とした。
まにわらしいスポーツの認知度	「ユニバーサルスポーツ」、「アウトドアスポーツ」、「馬術」をまにわらしいスポーツと思う人の割合	令和元年度真庭市スポーツライフ調査では調査未実施。	－	%	70程度	令和元年度真庭市スポーツライフ調査（一般市民対象）での馬術競技の認知度と同程度とした。

【基本目標 3】持続可能なスポーツ環境の充実

成果指標	指標の説明	データ出典	現状値	単位	目標値	目標値の考え方
スポーツ団体等の加入者数（スポーツ協会、スポ少、総合型）	真庭市スポーツ協会、真庭市スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ3団体の加入者数合計	真庭市スポーツ協会、真庭市スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ3団体	6,737	人	6,800	加入者数の現状維持を目指す。
スポーツライフ満足度	一般市民向けアンケートで「『する・みる・ささえる』スポーツライフの満足度」の平均（5.00満点）	令和元年度真庭市スポーツライフ調査（一般市民対象）	2.37	－	2.50	半分の値を目指す。
市の各スポーツ施設の利用者満足度	一般市民向けアンケートで「市内スポーツ施設の利用したことのある人の満足度」の平均（4.00満点）	令和元年度真庭市スポーツライフ調査（一般市民対象）	2.65	－	2.70	満足度が2.5を下回る施設を2.5まで引き上げることを目指す。
スポーツをすることが好きな小学生の割合	小学生向けアンケートで「運動やスポーツをすることがとても好き、まあ好き」と回答した人の割合	令和元年度真庭市スポーツライフ調査（小学5年生対象）	84	%	85程度	すべての学校段階で80%を上回ることを目指す。
スポーツをすることが好きな中学生の割合	中学生向けアンケートで「運動やスポーツをすることがとても好き、まあ好き」と回答した人の割合	令和元年度真庭市スポーツライフ調査（中学2年生対象）	83	%	85程度	
スポーツをすることが好きな高学生の割合	高校生向けアンケートで「運動やスポーツをすることがとても好き、まあ好き」と回答した人の割合	令和元年度真庭市スポーツライフ調査（高校2年生対象）	72	%	80程度	

## 令和元年度 真庭市スポーツライフ調査結果 (一般市民対象)

1. 分析対象者の概要
2. 幸福度
3. ソーシャルキャピタル
4. 地域愛着
5. するスポーツライフ
  - 1) 運動・スポーツ実施頻度
  - 2) 運動・スポーツ活動の場
  - 3) 運動・スポーツ活動の形態
  - 4) 運動・スポーツ活動の動機
6. 支えるスポーツライフ
7. みるスポーツライフ
8. 運動・スポーツ意識
  - 1) 好き・嫌い×得意・不得意
  - 2) スポーツライフ満足度
  - 3) スポーツライフ不満足度要因
9. 市内スポーツ施設に対する意識
10. スポーツ環境に関する希望
  - 1) 整備してほしいスポーツ施設
  - 2) 参加したいスポーツ行事・イベント
  - 3) 提供してほしいスポーツ関連情報
11. オリンピック・パラリンピックに対する意識
  - 1) 東京 2020 観戦について
  - 2) パラ・スポーツに対する関心
  - 3) 馬術・ホストタウンについての認知
  - 4) 馬術競技について

### 調査対象の抽出方法

- (1) 対象者：
 

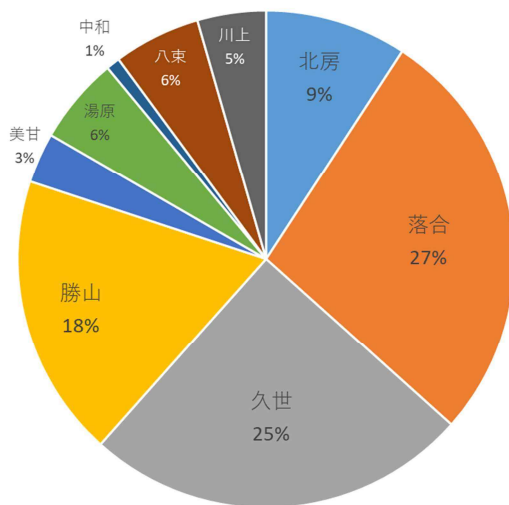
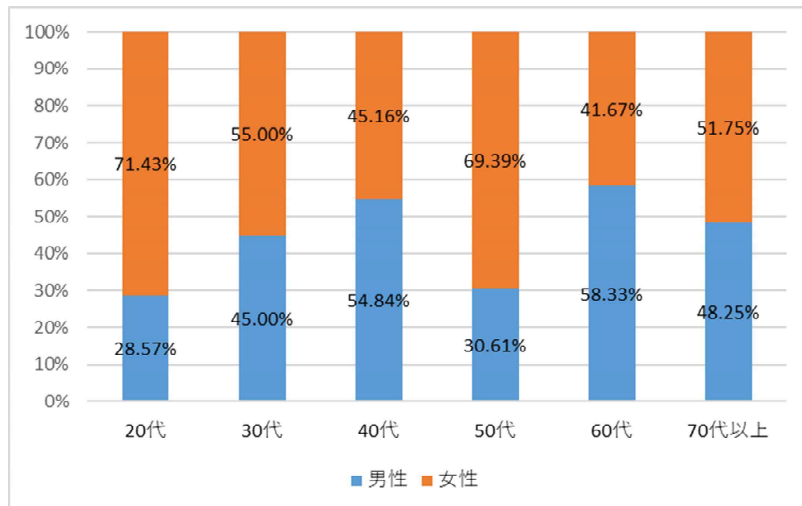
令和元年11月1日現在で、真庭市に住民票がある満20歳～89歳の者
- (2) 抽出人数：
 

合計1000名
- (3) 抽出条件：
 

層化二段抽出法による標本抽出とする

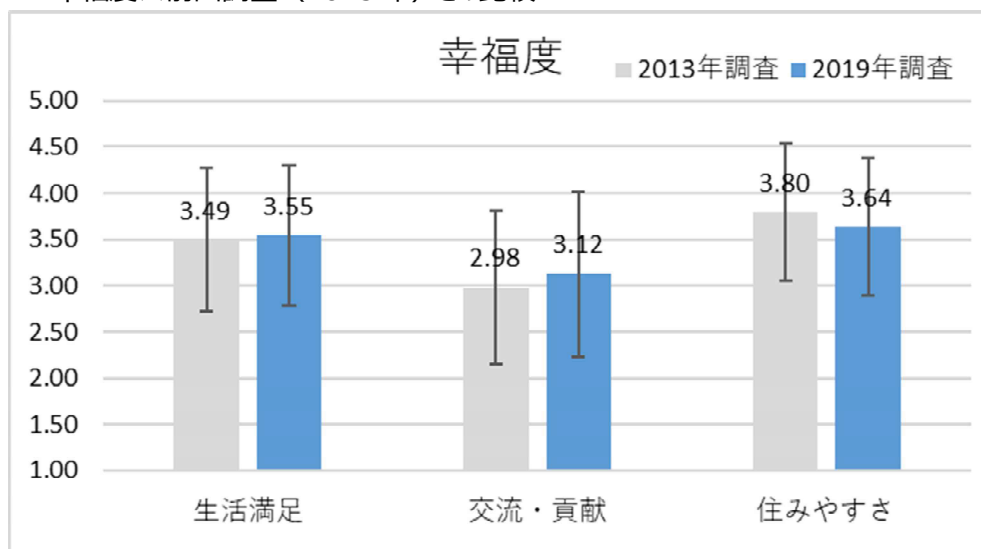
  - ①北房、落合、久世、勝山、美甘、湯原、中和、八束、川上の9地域による層化を行い、人口による確率比例抽出法で標本抽出する
  - ②各地域の標本抽出に当たっては、性別・年代別人口（20～29歳、30～39歳、40～49歳、50～59歳、60～69歳、70～79歳、80～89歳）による確率比例抽出法で標本抽出する

## 1. 分析対象者の概要



居住地域		平均値	度数	標準偏差
北房	男性	70.00	13	7.416
	女性	57.07	14	15.355
	合計	63.30	27	13.660
落合	男性	62.56	36	16.826
	女性	60.26	50	15.947
	合計	61.22	86	16.263
久世	男性	65.74	39	16.042
	女性	60.45	40	17.396
	合計	63.06	79	16.846
勝山	男性	59.41	29	15.068
	女性	62.96	27	18.365
	合計	61.13	56	16.680
美甘	男性	67.40	5	10.502
	女性	54.40	5	26.801
	合計	60.90	10	20.377
湯原	男性	63.57	7	12.581
	女性	65.27	11	16.335
	合計	64.61	18	14.613
中和	男性	54.50	2	17.678
	女性	66.00	1	
	合計	58.33	3	14.154
八束	男性	61.44	9	17.636
	女性	62.25	8	12.714
	合計	61.82	17	15.047
川上	男性	58.00	8	15.892
	女性	62.00	7	15.000
	合計	59.87	15	15.066
合計	男性	63.22	148	15.305
	女性	60.85	163	16.655
	合計	61.98	311	16.045

## 2. 幸福度※前回調査（2013年）との比較

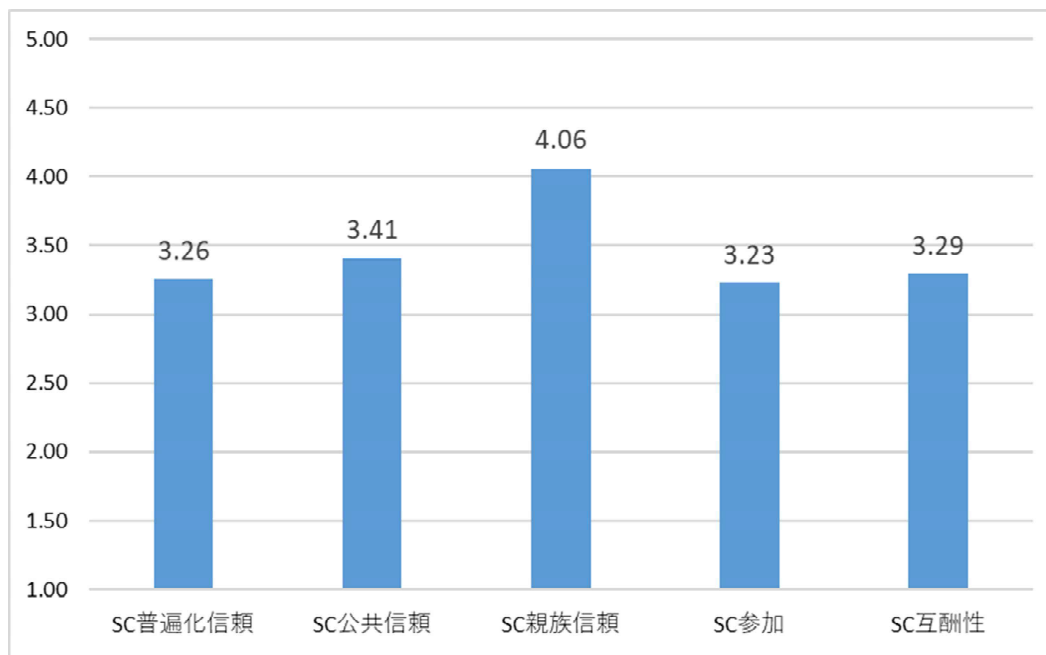


### 【コメント】

幸福度の内、真庭市や自地域の生活満足や住みやすさは中央値（3.0）を大きく超えている。  
また、生活満足や地域での交流や地域に対する貢献は前回調査（2013年）よりも微増している。

### 3. ソーシャルキャピタル

(普遍化信頼, 公共信頼, 親族信頼, 参加, 互酬性)

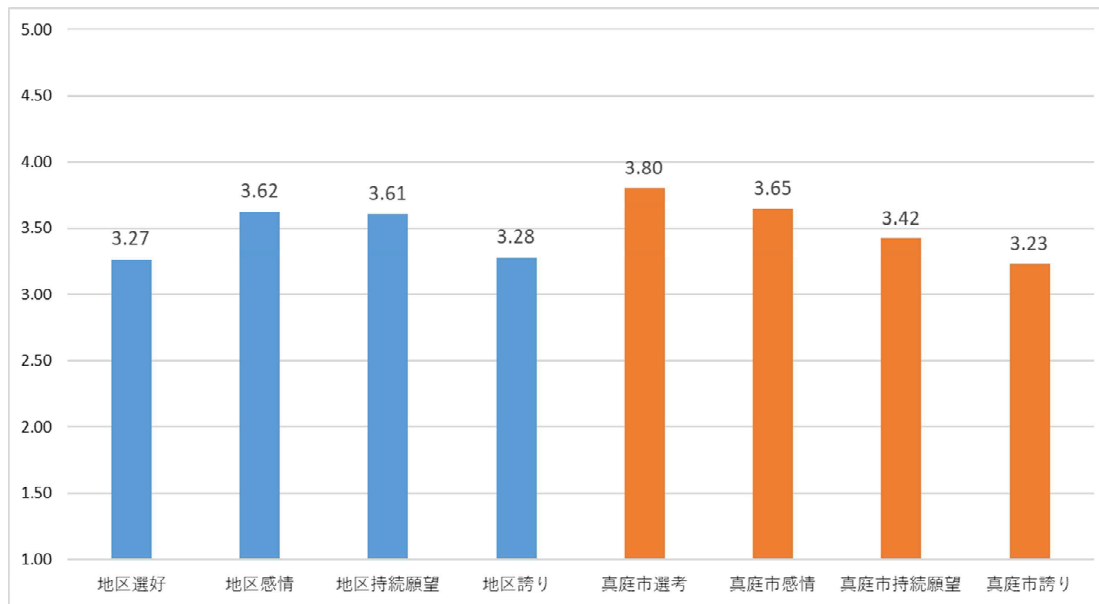


#### 【コメント】

ソーシャルキャピタルは、人と人の絆の力を社会資本と捉えたものである。いずれも中央値（3.00）を超えており、一般市民のソーシャルキャピタルは少なくない。特に、親族との信頼関係は高い。

### 4. 地域愛着（対地区・対真庭市）

(地区選好, 地区感情, 地区持続願望, 真庭市選考, 真庭市感情, 真庭市持続願望, 地区誇り, 真庭市誇り)



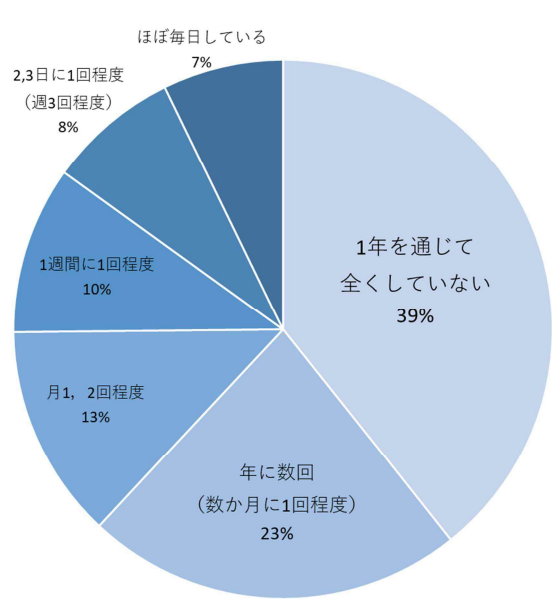
#### 【コメント】

地域愛着を、自分が生活する地区に対する愛着と、真庭市に対する愛着に分けて測定した。いずれも中央値（3.00）を超えており、地域愛着は高いと言えるだろう。

住み続けたいという思い（選好）は、自地区よりも真庭市に対して高く表れているが、変わらずにいてほしい（持続願望）や住民であることの誇り（誇り）はわずかに自地区の方に高く表れている。真庭市民であり続けたいという気持ちと自地区の持続可能性に対する願望が両立していると考えられるべきだろう。

5. するスポーツライフ

1) 運動・スポーツ実施頻度



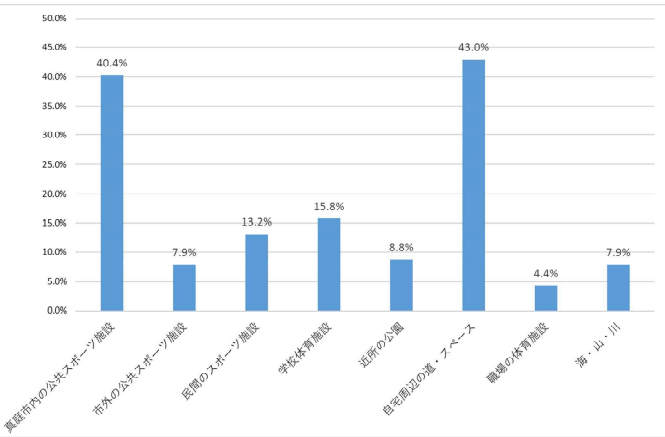
【コメント】

一年を通じて運動・スポーツを実施していない市民および年に数回（数か月に一回程度）しか運動・スポーツをしていない市民が6割を超える。

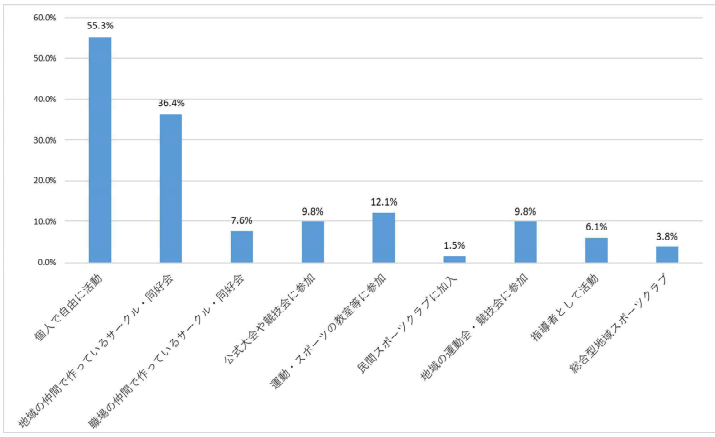
年代別では、男女ともに60代以上の実施頻度が低く、女性はすべての年代にわたって男性より実施頻度が低い。

				運動・スポーツ実施頻度						合計	
				1年を通じて 全くしてい ない	年に数回 (数か月に1 回程度)	月1, 2回程 度	1週間に1回 程度	2, 3日に1回 程度 (週3回 程度)	ほぼ毎日し ている		
男性	年代	20代	n	1	1	0	0	1	1	4	
			%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	100.0%	
		30代	n	3	1	3	1	1	0	9	
			%	33.3%	11.1%	33.3%	11.1%	11.1%	0.0%	100.0%	
		40代	n	3	7	1	3	2	1	17	
			%	17.6%	41.2%	5.9%	17.6%	11.8%	5.9%	100.0%	
		50代	n	2	3	4	3	1	1	14	
			%	14.3%	21.4%	28.6%	21.4%	7.1%	7.1%	100.0%	
		60代	n	20	13	6	1	3	3	46	
			%	43.5%	28.3%	13.0%	2.2%	6.5%	6.5%	100.0%	
		70代以上	n	17	10	8	4	5	5	49	
			%	34.7%	20.4%	16.3%	8.2%	10.2%	10.2%	100.0%	
		合計		n	46	35	22	12	13	11	139
				%	33.1%	25.2%	15.8%	8.6%	9.4%	7.9%	100.0%
女性	年代	20代	n	3	3	1	1	1	1	10	
			%	30.0%	30.0%	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%	100.0%	
		30代	n	7	3	0	0	1	0	11	
			%	63.6%	27.3%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	100.0%	
		40代	n	4	5	2	3	0	0	14	
			%	28.6%	35.7%	14.3%	21.4%	0.0%	0.0%	100.0%	
		50代	n	19	6	4	4	0	1	34	
			%	55.9%	17.6%	11.8%	11.8%	0.0%	2.9%	100.0%	
		60代	n	13	8	5	0	4	4	34	
			%	38.2%	23.5%	14.7%	0.0%	11.8%	11.8%	100.0%	
		70代以上	n	25	7	4	8	6	3	53	
			%	47.2%	13.2%	7.5%	15.1%	11.3%	5.7%	100.0%	
		合計		n	71	32	16	16	12	9	156
				%	45.5%	20.5%	10.3%	10.3%	7.7%	5.8%	100.0%

2) 運動・スポーツ活動の場



3) 運動・スポーツ活動の形態



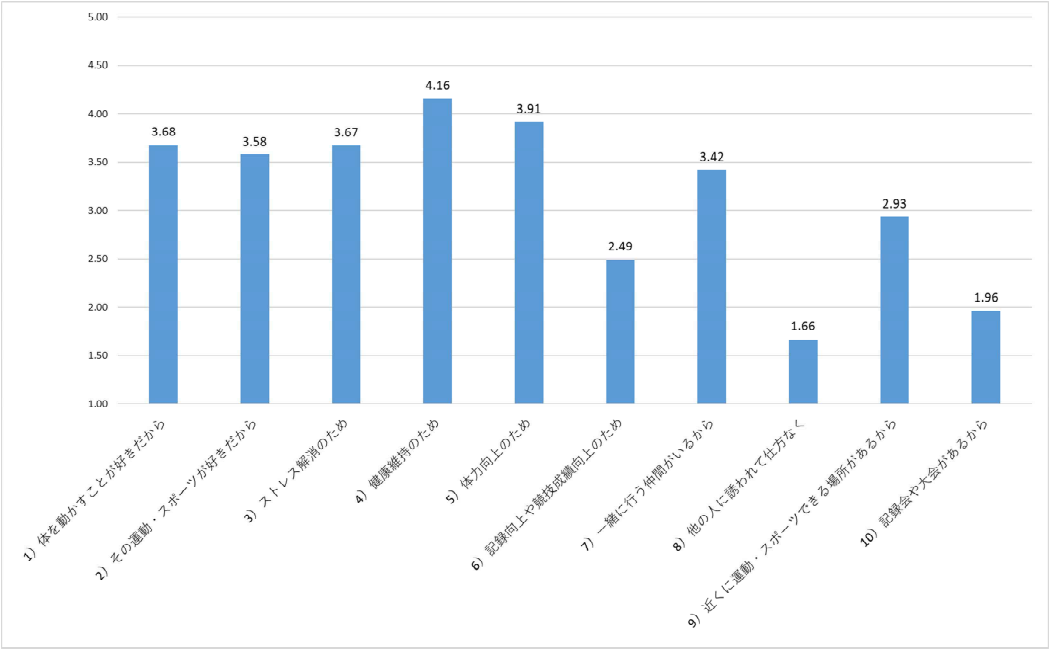
【コメント】

市民の運動・スポーツ活動は、公共スポーツ施設と自宅周辺の空間に集中している。

他の施設の利用促進が課題であろう。

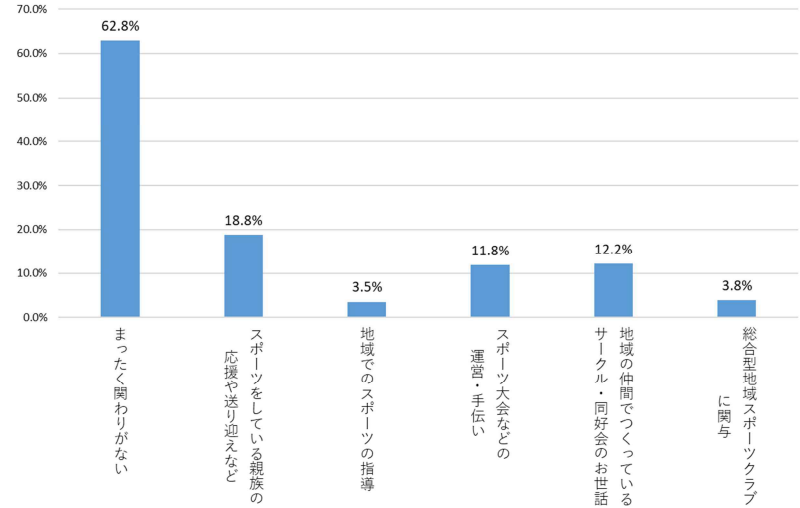
市民の運動・スポーツ活動は、個人で行うものが半数以上を占めており、個人化が進んでいる。一方、地域のサークル・同好会に所属して活動する市民も36.4%おり、前回調査（平成25年度）の33.1%から組織的な活動が少しずつ広がっていると思われる。

4) 運動・スポーツ活動の動機



【コメント】  
市民の運動・スポーツ活動は、個人的な動機（項目 1）～5））で行われている。一方、「7）一緒に行う仲間がいるから」（平均値 3.42）という動機も一定程度あり、より一層のスポーツ活動の組織化が進められるだろう。  
また、「9）近くに運動・スポーツできる場所があるから」（平均値 2.93）という動機は、施設利用促進策によって引き上げることができるだろう。

6. 支えるスポーツライフ



		支えるスポーツ 実践有り	支えるスポーツ 実践無し
男性	20代	25.0%	75.0%
	30代	55.6%	44.4%
	40代	82.4%	17.6%
	50代	46.7%	53.3%
	60代	40.8%	59.2%
	70代以上	34.5%	65.5%
女性	20代	20.0%	80.0%
	30代	54.5%	45.5%
	40代	50.0%	50.0%
	50代	41.2%	58.8%
	60代	25.7%	74.3%
	70代以上	28.8%	71.2%

【コメント】  
多くの市民は、親族を除いて他者のスポーツを支える活動を行っていない。一方、高齢者は支えるスポーツライフが想定的に豊かであり、真庭市のスポーツを支える人材になっていると推察される。

7. みるスポーツライフ

	テレビ観戦しない	テレビ観戦する
直接観戦しない	18.9%	61.9%
	59名	193名
直接観戦する	0.6%	18.6%
	2名	58名

【コメント】  
市民のみるスポーツライフは二極化している。  
30代男女のスポーツ観戦離れ、20代・30代の男性のテレビ観戦離れは顕著である。

		直接＆間接観戦	直接観戦のみ	間接観戦のみ	観戦なし
男性	20代	50.0%	0.0%	25.0%	25.0%
	30代	33.3%	0.0%	22.2%	44.4%
	40代	25.0%	0.0%	62.5%	12.5%
	50代	26.7%	0.0%	53.3%	20.0%
	60代	18.8%	0.0%	66.7%	14.6%
	70代以上	18.8%	0.0%	72.9%	8.3%
女性	20代	0.0%	0.0%	70.0%	30.0%
	30代	9.1%	0.0%	36.4%	54.5%
	40代	38.5%	0.0%	38.5%	23.1%
	50代	14.7%	5.9%	52.9%	26.5%
	60代	12.9%	0.0%	64.5%	22.6%
	70代以上	18.0%	0.0%	66.0%	16.0%



## 8. 運動・スポーツ意識

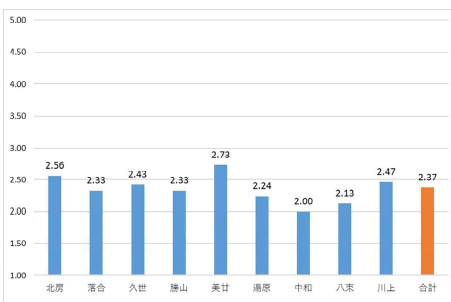
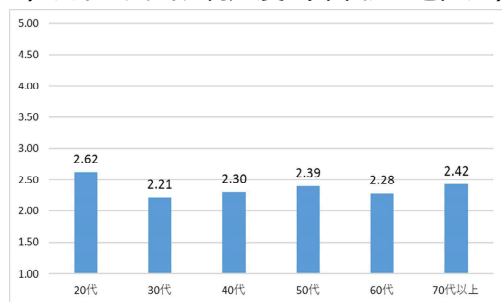
### 1) 好き・嫌い×得意・不得意

	運動不得意	運動得意
運動嫌い	35.5%	1.2%
	114名	4名
運動好き	23.4%	39.9%
	75名	128名

### 【コメント】

前回調査（平成 25 年度）から、「運動好き×運動得意」の割合が 44.7%から 39.9%に減少していることは課題だが、「運動好き×運動不得意」の割合が 17.9%から 23.4%に増加しており、「運動嫌い×運動不得意」の割合が 36.8%から 35.5%に減少していることから、若干改善されていると考えてよいだろう。

### 2) スポーツライフ満足度（年代別・地区別）

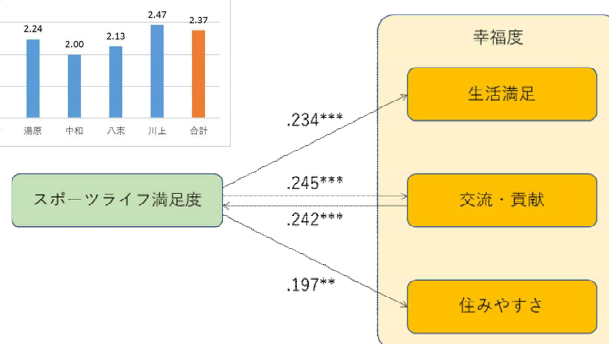


### 【コメント】

市民のスポーツライフ満足度は、年代別・地区別でも 3.00（5.00 満点）を超えず、全体的に低いと考えられる。市民全体の満足度は前回調査（平成 25 年度）の 2.45 から 2.37 に微減しており、全年代・全地域の満足度向上策が求められる。

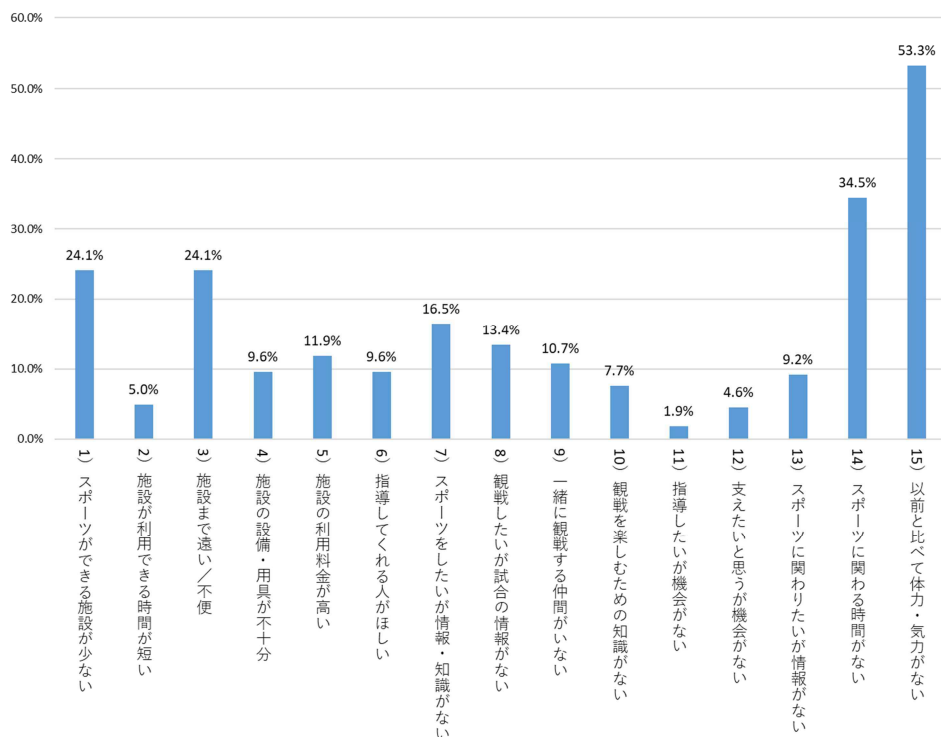
特に、70 代以上のポイントが 0.4~0.5 ほど下っており、高齢者の満足度を高めることが必要だろう。

また、スポーツライフ満足度は、幸福度のすべての内容に対してポジティブな影響を及ぼしており、スポーツライフに対する満足度を高めることが幸福度を高めることが明らかになった。なお、地域での交流や地域に対する貢献は、スポーツライフ満足度を高める。



スポーツライフ満足度と幸福度の因果関係（一般市民）

### 3) スポーツライフ不満足要因



### 【コメント】

「14）時間がない」、「15）体力・気力がない」という個人的阻害要因を除けば、「1）施設が少ない」、「2）施設まで遠い／不便」というスポーツ施設に関する阻害要因と、「7）情報・知識がない」というスポーツ情報提供に関する阻害要因の解決が求められるだろう。

## 9. 市内スポーツ施設に対する意識

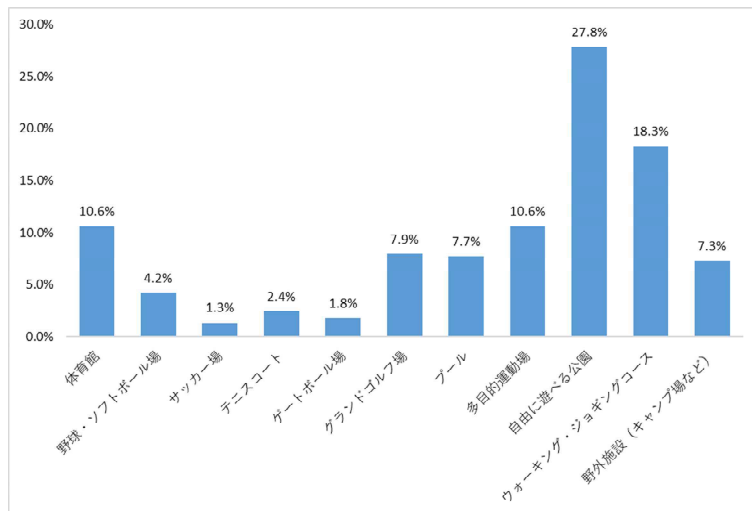
施設名	利用の有無	利用したことのある方のみ回答	
		満足度 (4点満点)	不満な点 (TOP3)
(1) 北房運動公園・ 北房 B&G 海洋センター	市民利用率 20.5% (回答者内割合)	2.37	4. 自宅から遠い・移動が不便 (46.8%) 5. 施設が古い・汚い (33.9%) 6. 設備・用具が使いにくい (9.7%)
(2) 落合総合公園	市民利用率 45.8% (回答者内割合)	2.83	4. 自宅から遠い・移動が不便 (10.6%) 3. 駐車場が足りない (7.3%) 2. 予約しにくい (3.2%)
(3) 久世体育館	市民利用率 32.0% (回答者内割合)	2.31	5. 施設が古い・汚い (14.4%) 3. 駐車場が足りない (6.2%) 4. 自宅から遠い・移動が不便 (3.5%)
(4) 宮芝グラウンド	市民利用率 37.0% (回答者内割合)	2.60	5. 施設が古い・汚い (8.5%) 4. 自宅から遠い・移動が不便 (5.3%) 3. 駐車場が足りない (3.5%) 6. 設備・用具が使いにくい (3.5%)
(5) 真庭やまびこスタジアム	市民利用率 19.6% (回答者内割合)	2.98	4. 自宅から遠い・移動が不便 (5.0%) 2. 予約しにくい (1.8%) 6. 設備・用具が使いにくい (1.2%)
(6) 勝山スポーツセンター	市民利用率 30.8% (回答者内割合)	2.72	3. 駐車場が足りない (5.3%) 5. 施設が古い・汚い (5.3%) 4. 自宅から遠い・移動が不便 (4.4%)
(7) 勝山運動公園	市民利用率 35.3% (回答者内割合)	2.87	4. 自宅から遠い・移動が不便 (7.9%) 5. 施設が古い・汚い (4.1%) 3. 駐車場が足りない (2.6%)
(8) 勝山健康増進施設 水夢	市民利用率 19.7% (回答者内割合)	2.83	1. 利用料金が高い (3.8%) 4. 自宅から遠い・移動が不便 (3.8%) 3. 駐車場が足りない (0.9%)
(9) 美甘グラウンド	市民利用率 6.1% (回答者内割合)	2.29	4. 自宅から遠い・移動が不便 (2.6%) 5. 施設が古い・汚い (1.2%) 3. 駐車場が足りない (0.9%)
(10) 湯原温泉スポーツ公園・ 湯原クライミングセンター	市民利用率 11.1% (回答者内割合)	2.58	4. 自宅から遠い・移動が不便 (4.1%) 5. 施設が古い・汚い (1.2%)
(11) 平成の森ドーム・ スポーツグラウンド	市民利用率 9.0% (回答者内割合)	2.73	4. 自宅から遠い・移動が不便 (2.9%) 5. 施設が古い・汚い (0.9%) 3. 駐車場が足りない (0.6%)
(12) 蒜山高原スポーツ公園・ 蒜山 B&G 海洋センター	市民利用率 17.3% (回答者内割合)	2.63	4. 自宅から遠い・移動が不便 (5.9%) 5. 施設が古い・汚い (4.4%) 6. 設備・用具が使いにくい (2.3%)
(13) 蒜山ホースパーク	市民利用率 7.8% (回答者内割合)	2.74	4. 自宅から遠い・移動が不便 (2.6%) 1. 利用料金が高い (0.9%) 3. 駐車場が足りない (0.6%)

## 【コメント】

すべての施設で、「4）自宅から遠い・移動が不便」という課題があり、アクセスの利便性の解決が求められる。



## 10. スポーツ環境に関する希望



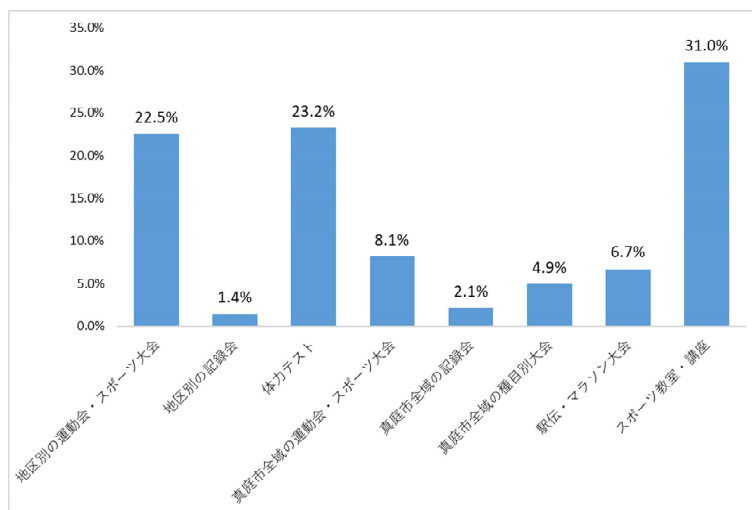
### 1) 整備してほしいスポーツ施設

#### 【コメント】

市民のスポーツ施設に対するニーズは、個人化したスポーツライフに適した「自由に遊べる公園」「ウォーキング・ジョギングコース」が突出している。

このニーズにそのまま対応すると、市民のスポーツライフの個人化が一層進むと思われるため、検討が必要だろう。

### 2) 参加したいスポーツ行事・イベント

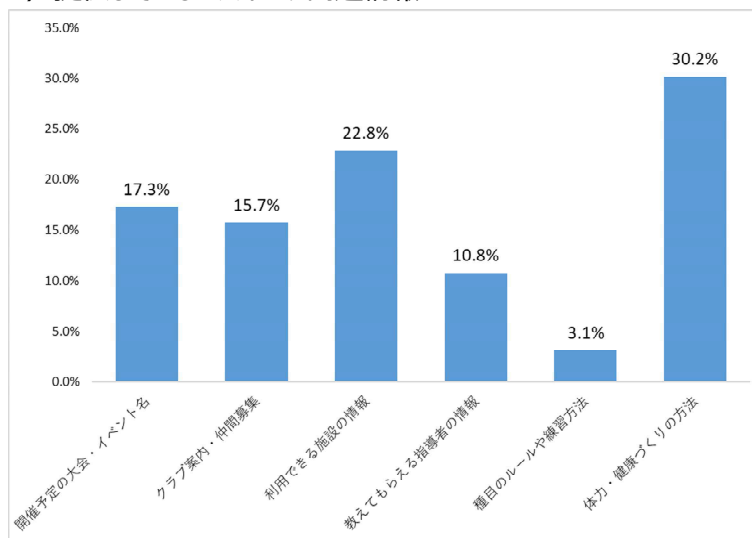


#### 【コメント】

市民が参加したいスポーツ行事・イベントは、スポーツ教室・講座や体力テストといった個人で参加するプログラムと、地区別の運動会・スポーツ大会である。

個人化傾向を反映している一方、地区別のイベントに一定のニーズがあることは注目されるべきだろう。

### 3) 提供してほしいスポーツ関連情報



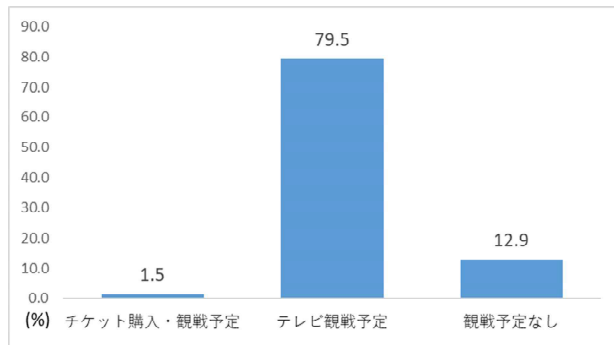
#### 【コメント】

市民が提供してほしいスポーツ関連情報は、体力・健康づくりの方法の他、スポーツ施設の情報、大会・イベント情報、クラブや仲間募集情報など、自身のスポーツ活動の場を求めるものである。

スポーツライフの個人化傾向が進む一方で、参加可能なクラブや仲間募集の情報にニーズがあるのは注目される。こうした情報の積極的な広報は市のスポーツ振興上、重要だと考えられる。

## 11. オリンピック・パラリンピックに対する意識

### 1) 東京 2020 観戦について

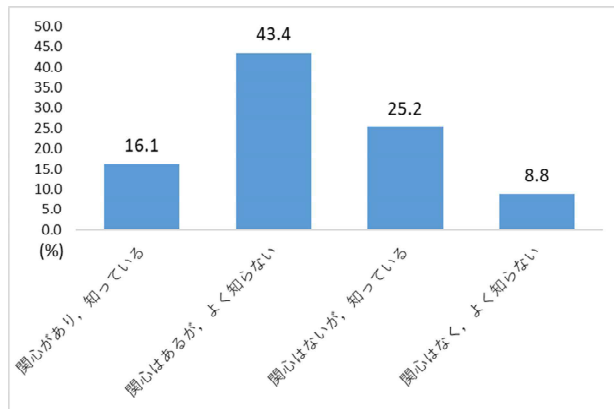


#### 【コメント】

テレビ観戦予定の市民が 80% 近くおり、関心の高さが伺える。一方、直接観戦する予定の市民は 2% を切っている。

ホストタウン事業や聖火リレー、ボランティア等を通じて、東京五輪を直接体験する機会を提供することは重要になるだろう。

### 2) パラ・スポーツに対する関心

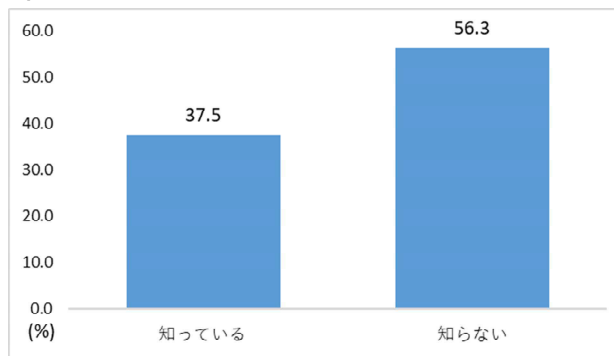


#### 【コメント】

パラ・スポーツの認知度は 40% を超え、関心のある市民は 60% 近くいる。この認知度・関心度の高さを事業に生かしていくべきだろう。

また、10% 弱の無認知・無関心層へのアプローチを考えていく必要があるだろう。

### 3) 馬術・ホストタウンについての認知



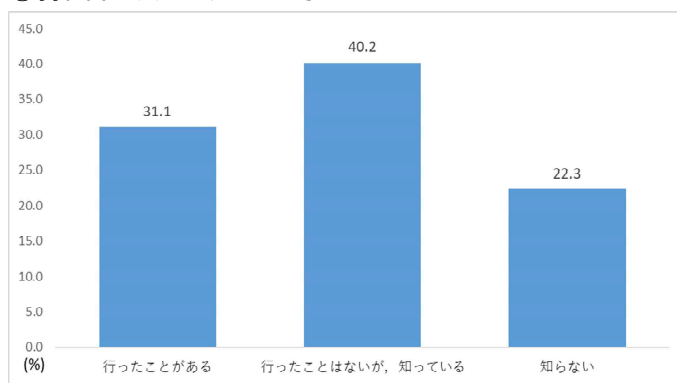
#### 【コメント】

真庭市が馬術の強豪国であるドイツのホストタウンになったことについて知らない市民が、まだ 60% 近くいることは課題である。

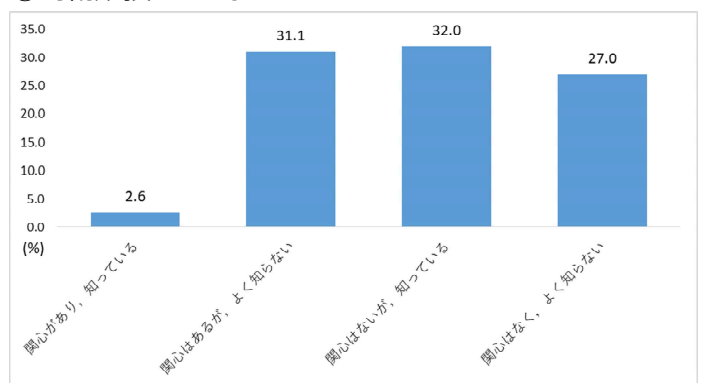
東京五輪が一年延期されたことを、認知度向上の機会とすべきだろう。

### 4) 馬術競技について

#### ① 萩山ホースパークについて



#### ② 馬術競技について



【コメント】 萩山ホースパークの来場経験者・認知者は 70% を超えている。残る 20% への市民への PR が必要だろう。また、馬術競技についての認知度は約 35%、関心度は約 33% と高くない。さらなる PR が必要だろう。

令和元年度 真庭市スポーツライフ調査結果  
(障がいのある人対象)

1. 分析対象者の概要
2. 幸福度
3. ソーシャルキャピタル
4. 地域愛着
5. するスポーツライフ
  - 1) 運動・スポーツ実施頻度
  - 2) 運動・スポーツ活動の場
  - 3) 運動・スポーツ活動の形態
  - 4) 運動・スポーツ活動の動機
6. 支えるスポーツライフ
7. みるスポーツライフ
8. 運動・スポーツ意識
  - 1) 好き・嫌い×得意・不得意
  - 2) スポーツライフ満足度
  - 3) スポーツライフ不満足度要因
9. 市内スポーツ施設に対する意識
10. スポーツ環境に関する希望
  - 1) 整備してほしいスポーツ施設
  - 2) 参加したいスポーツ行事・イベント
  - 3) 提供してほしいスポーツ関連情報
11. オリンピック・パラリンピックに対する意識
  - 1) 東京 2020 観戦について
  - 2) パラ・スポーツに対する関心
  - 3) 馬術・ホストタウンについての認知
  - 4) 馬術競技について

調査対象の抽出方法

(1) 対象者：

令和元年11月1日現在で、真庭市に住民票があり、障害者手帳を持つ満18歳以上の方

(2) 抽出人数：

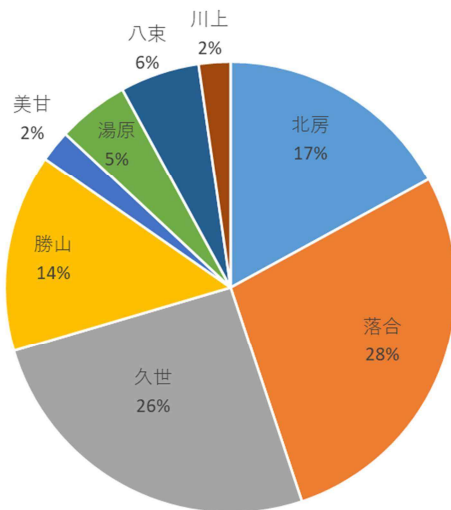
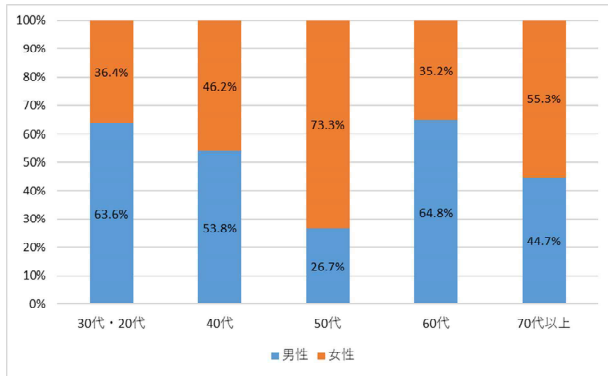
合計700名

(3) 抽出条件：

層化二段抽出法による標本抽出とする

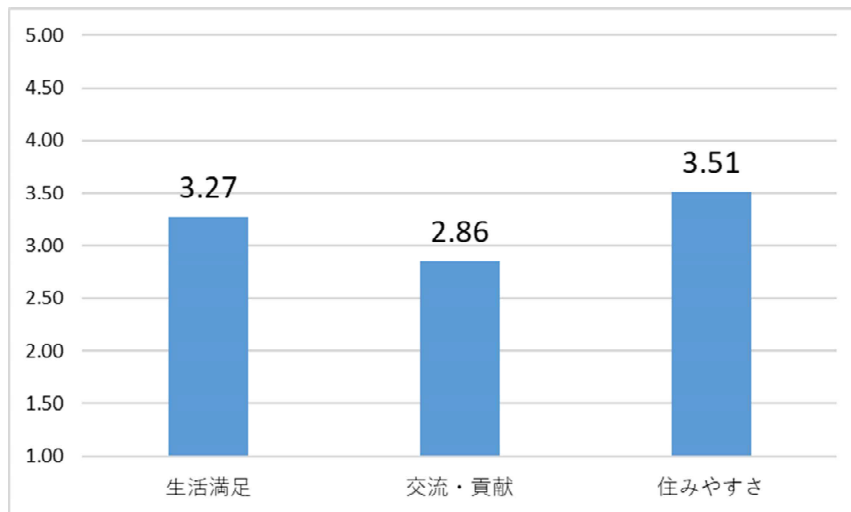
- ①療育手帳所有者、身体障害者手帳所有者、精神障害者福祉手帳所有者による層化を行い、人口による確立比例抽出法で標本抽出する。
- ②各手帳所有者の標本抽出に当たっては、年代別構成（18～64歳、65歳以上）での比率を1：1とする。

## 1. 分析対象者の概要



居住地域		平均値	度数	標準偏差
北房	男性	65.95	19	13.151
	女性	66.18	11	19.472
	合計	66.03	30	15.431
落合	男性	63.92	26	13.090
	女性	70.09	23	20.327
	合計	66.82	49	16.979
久世	男性	64.17	18	21.250
	女性	67.25	24	17.061
	合計	65.93	42	18.786
勝山	男性	65.91	11	14.842
	女性	73.25	12	11.087
	合計	69.74	23	13.254
美甘	男性	70.00	2	1.414
	女性	70.50	2	17.678
	合計	70.25	4	10.243
湯原	男性	74.00	4	21.432
	女性	76.50	4	8.888
	合計	75.25	8	15.248
八束	男性	66.17	6	7.195
	女性	63.67	3	23.116
	合計	65.33	9	12.942
川上	男性	72.00	1	
	女性	65.00	3	15.133
	合計	66.75	4	12.842
合計	男性	65.52	87	15.016
	女性	69.10	82	17.131
	合計	67.25	169	16.129

## 2. 幸福度

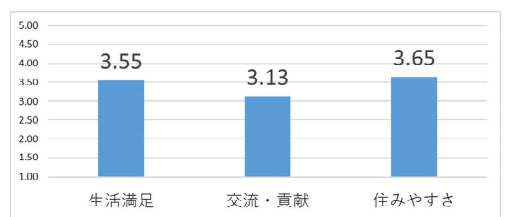


### 【コメント】

交流・貢献に関わる幸福度が相対的に低い、この傾向は一般市民と共通している。

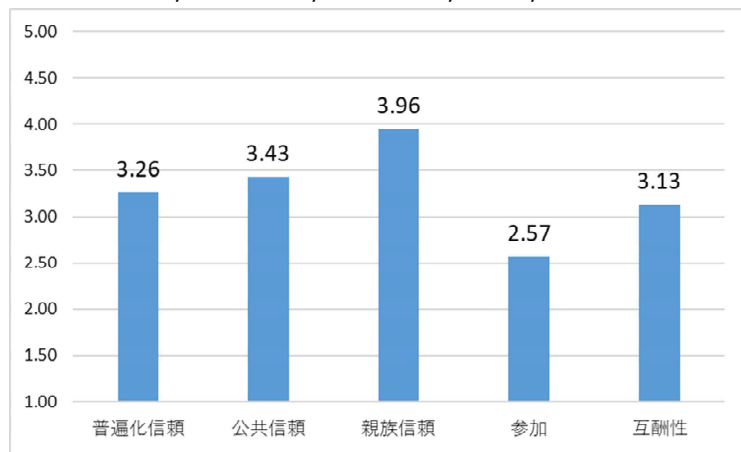
また、一般市民と比較して、全ての要素で低い値を示していることは、障がい者福祉の不足を表しているものと考えられる。運動・スポーツを通じた幸福度の向上策が講じられる必要があるだろう。

### 【参考】一般市民の幸福度



### 3. ソーシャルキャピタル

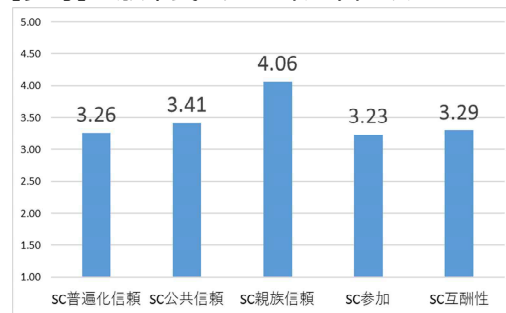
(普遍化信頼, 公共信頼, 親族信頼, 参加, 互酬性)



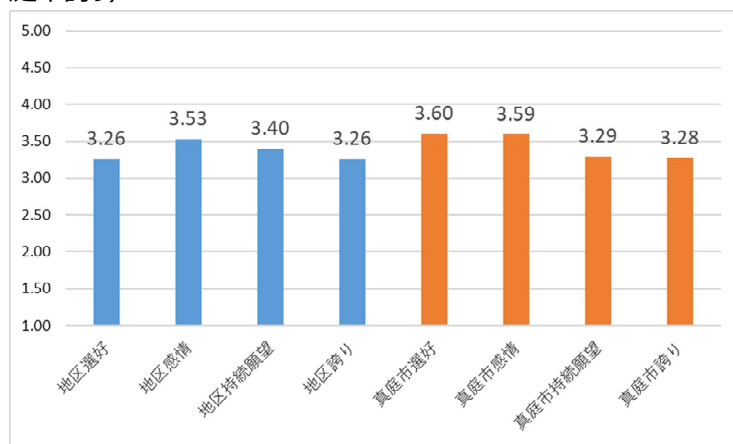
#### 【コメント】

ソーシャルキャピタル得点は一般市民と似たような傾向を示している。障がいのある人の社会「参加」の度合いの低さを調査結果が示しており、運動・スポーツを通じた社会参加を促進していくことが必要だろう。

#### 【参考】一般市民のソーシャルキャピタル



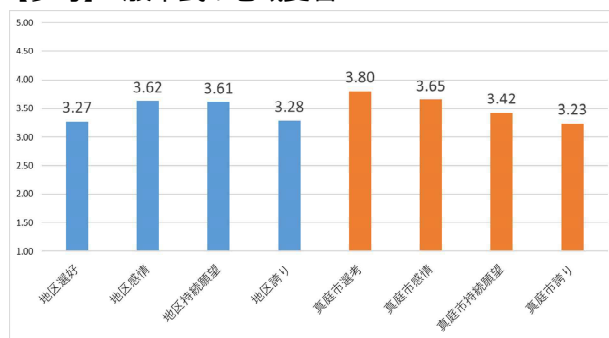
### 4. 地域愛着 (地区選好, 地区感情, 地区持続願望, 真庭市選考, 真庭市感情, 真庭市持続願望, 地区誇り, 真庭市誇り)



#### 【コメント】

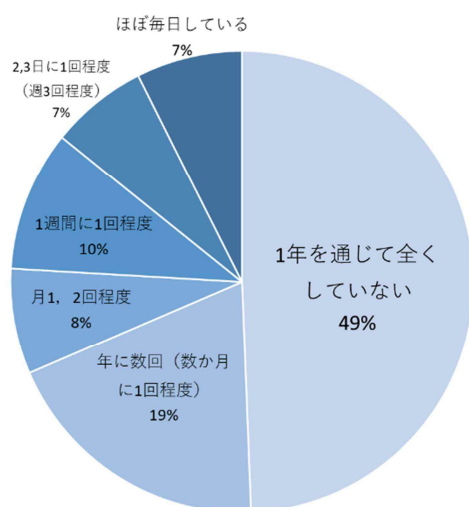
地域愛着については、一般市民と同様の結果であるが、一般市民同様、4.0を超えていない。地域愛着をさらに高めていく施策が求められるだろう。

#### 【参考】一般市民の地域愛着



### 5. するスポーツライフ

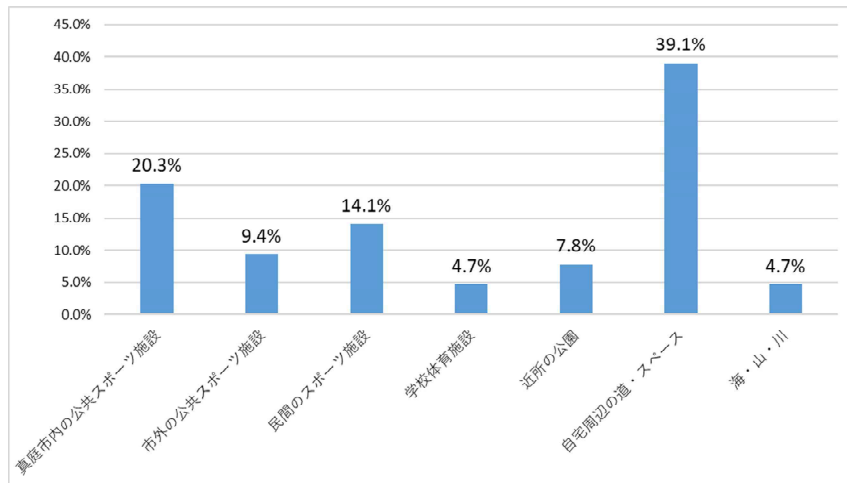
#### 1) 運動・スポーツ実施頻度



		1年を通じて全くしていない	年に数回(数か月に1回程度)	月1, 2回程度	1週間に1回程度	2,3日に1回程度(週3回程度)	ほぼ毎日している
男性	20代・30代	28.6%	42.9%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%
	40代	16.7%	50.0%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%
	50代	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	60代	60.6%	12.1%	9.1%	0.0%	6.1%	12.1%
	70代以上	33.3%	26.7%	10.0%	13.3%	13.3%	3.3%
女性	20代・30代	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%
	40代	66.7%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%
	50代	72.7%	0.0%	0.0%	18.2%	9.1%	0.0%
	60代	72.2%	16.7%	0.0%	5.6%	0.0%	5.6%
	70代以上	44.4%	16.7%	5.6%	19.4%	5.6%	8.3%

【コメント】一年を通じて運動・スポーツを実施していない、および年に数回(数か月に一回程度)しか運動・スポーツをしていない障がいのある人が約7割にも及ぶ。

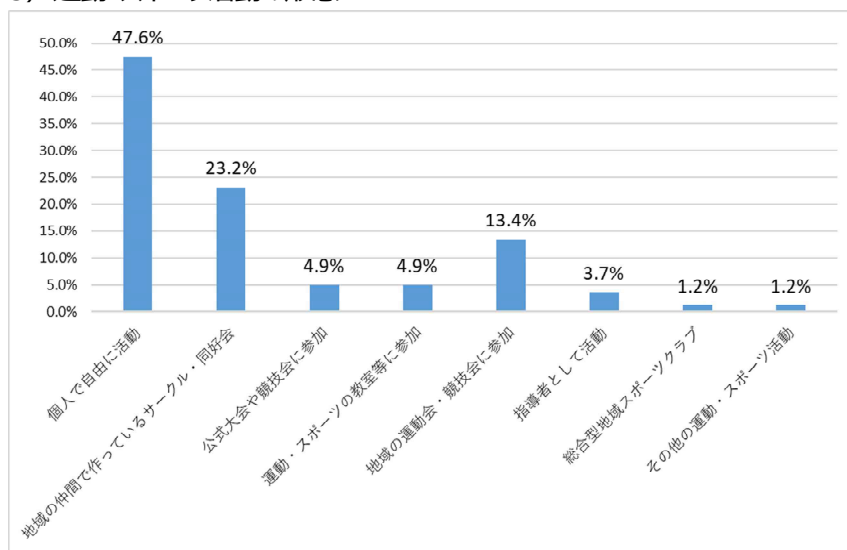
## 2) 運動・スポーツ活動の場



### 【コメント】

障がいのある人の運動・スポーツ活動は自宅周辺の空間に集中している。公共スポーツ施設を含め、他の施設の利用促進が課題である。

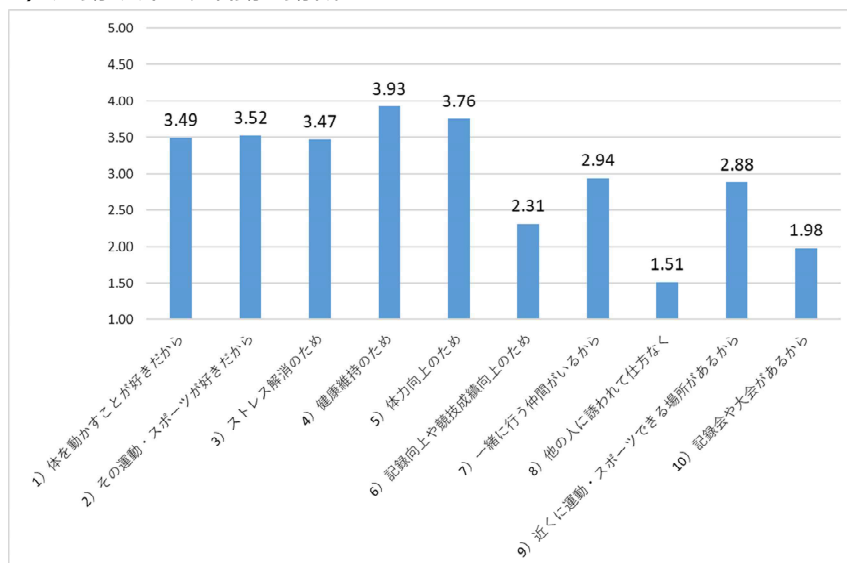
## 3) 運動・スポーツ活動の形態



### 【コメント】

障がいのある人の運動・スポーツ活動は、個人で行うものが半数を占めており、サークル・同好会の加入率も4分の1を切っている。外出することそのものに障壁がある障がいのある人に対して、一緒に運動・スポーツする仲間や参加したいと思える大会やイベント等が用意されることは、スポーツライフを活性化する上で重要になる。

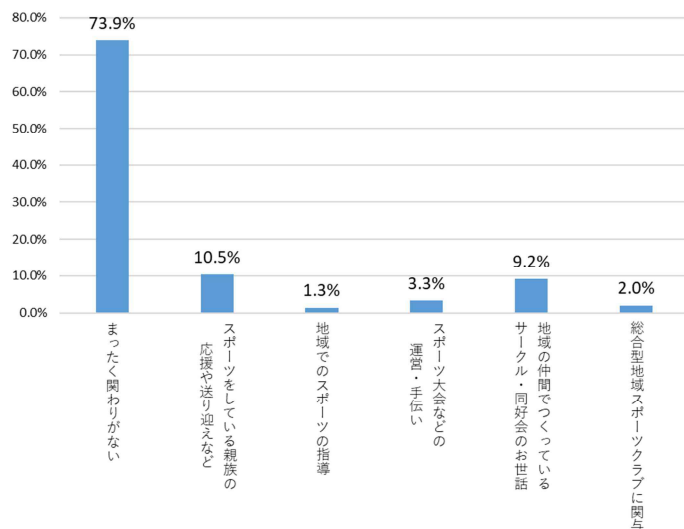
## 4) 運動・スポーツ活動の動機



### 【コメント】

障がいのある人の運動・スポーツ活動は、個人的な動機（項目1）～5））で行われている。この傾向は一般市民と同様である。「7）一緒に行う仲間がいるから」（平均値2.94）という動機や「9）近くに運動・スポーツできる場所があるから（平均値2.88）」という動機が一定のピークを見せているものの、いずれも3.0を超えるものではなく、この運動・スポーツ動機を高めていく必要があるだろう。

## 6. 支えるスポーツライフ



		支えるスポーツ 実践有り	支えるスポーツ 実践無し
男性	20代・30代	28.6%	71.4%
	40代	42.9%	57.1%
	50代	25.0%	75.0%
	60代	17.1%	82.9%
	70代以上	32.4%	67.6%
女性	20代・30代	0.0%	100.0%
	40代	16.7%	83.3%
	50代	0.0%	100.0%
	60代	10.5%	89.5%
	70代以上	21.4%	78.6%

### 【コメント】

障がいのある人の7割は、支えるスポーツライフを送っていない。

支えられる側と考えられている障がいのある人だが、支える側に回った経験のある人もいる。障がいのある人でも活躍できる場をつくるのが課題になるだろう。

## 7. みるスポーツライフ

	テレビ観戦しない	テレビ観戦する
直接観戦しない	23.0%	60.2%
	37名	97名
直接観戦する	0.0%	16.8%
	0名	27名

		直接&間接観戦	間接観戦のみ	観戦なし
男性	20代・30代	0.0%	14.3%	85.7%
	40代	42.9%	28.6%	28.6%
	50代	25.0%	75.0%	0.0%
	60代	15.2%	57.6%	27.3%
	70代以上	15.6%	75.0%	9.4%
女性	20代・30代	33.3%	33.3%	33.3%
	40代	33.3%	33.3%	33.3%
	50代	22.2%	55.6%	22.2%
	60代	11.8%	64.7%	23.5%
	70代以上	18.2%	66.7%	15.2%

### 【コメント】

障がいのある人のみるスポーツライフは、一般市民と同様に二極化している。特に若い世代の男性のスポーツ観戦は乏しい。広く障がいのある人にもスポーツ観戦の機会を十分に提供することができるだろう。

## 8. 運動・スポーツ意識

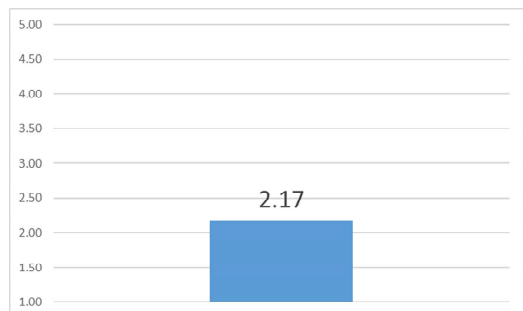
### 1) 好き・嫌い×得意・不得意

	運動不得意	運動得意
運動嫌い	45.1%	0.0%
	74名	0名
運動好き	22.0%	32.9%
	36名	54名

### 【コメント】

運動・スポーツが不得意で嫌いだと感じている障がいのある人は45.1%いる。一方で、得意不得意に関わらず運動・スポーツが好きだと感じている障がい者は5割以上おり、運動・スポーツへの肯定的な意識は二極化している。それぞれにあった施策が求められるだろう。

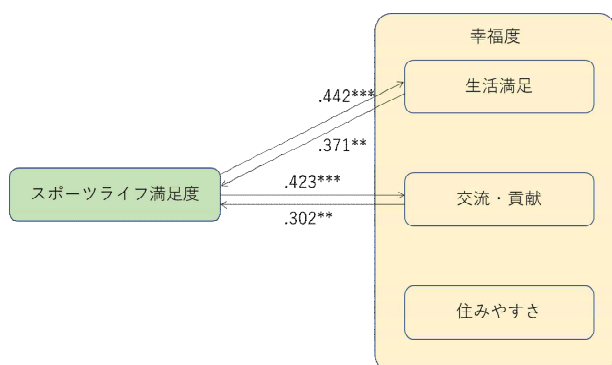
## 2) スポーツライフ満足度



### 【コメント】

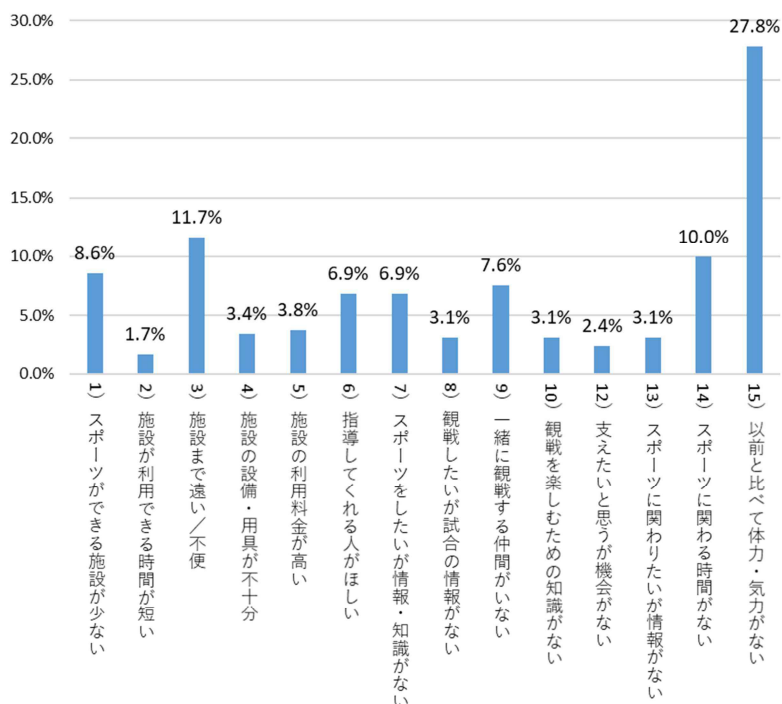
障がいのある人のスポーツライフ満足度は極めて低い。その要因は「以前と比べて体力・気力がない」ということに集中している。

体力がなくても活動できる運動・スポーツもあることを周知し、活動場所へのアクセスや着替えや準備等のストレスを軽減する工夫をして、運動・スポーツ活動を活発にする施策が急務だろう。



スポーツライフ満足度と幸福度の因果関係（障がいのある人）

## 3) スポーツライフ不満足要因



また、障害のある人にとって、スポーツライフ満足度と幸福度（生活満足および交流・貢献）は相互依存の関係にある。する・みる・支えるスポーツライフを豊かにして満足度を高める施策と、地域生活の幸福度を高める障害福祉的な施策は、相乗効果を生む可能性が高い。

## 9. 市内スポーツ施設に対する意識

施設名	利用の有無	利用したことのある方のみ回答	
		満足度 (4点満点)	不満な点 (TOP3) (ひとり以上の回答項目のみ)
(1) 北房運動公園・ 北房 B&G 海洋センター	利用率 12.7% (回答者内割合)	2.65	4. 自宅から遠い・移動が不便 (7.2%) 5. 施設が古い・汚い (5.0%) 6. 設備・用具が使いにくい (2.2%)
(2) 落合総合公園	利用率 33.7% (回答者内割合)	2.75	4. 自宅から遠い・移動が不便 (16.0%) 3. 駐車場が足りない (3.9%) 1. 利用料金が低い (1.1%) 5. 施設が古い・汚い (1.1%)
(3) 久世体育館	利用率 17.1% (回答者内割合)	2.32	5. 施設が古い・汚い (7.2%) 3. 駐車場が足りない (4.4%) 4. 自宅から遠い・移動が不便 (2.8%)
(4) 宮芝グラウンド	利用率 23.8% (回答者内割合)	2.62	4. 自宅から遠い・移動が不便 (6.6%) 5. 施設が古い・汚い (3.9%) 3. 駐車場が足りない (3.3%)



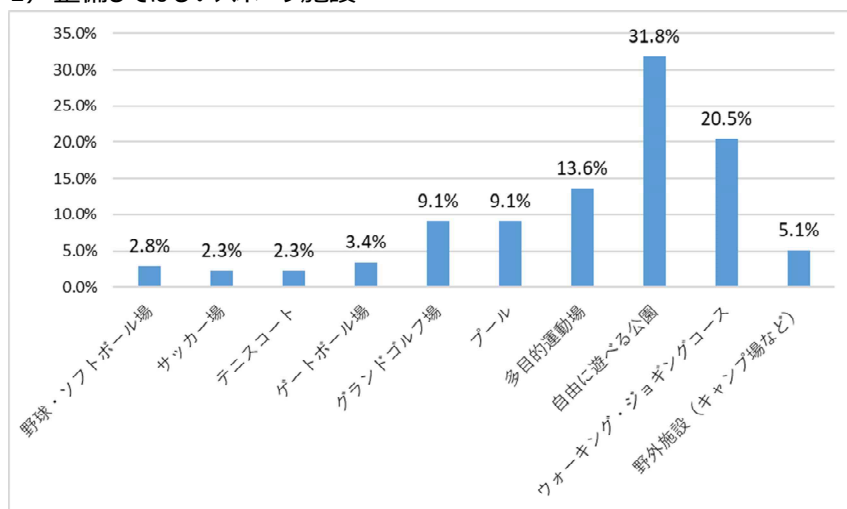
(5) 真庭やまびこスタジアム	利用率 14.4% (回答者内割合)	3.00	4. 自宅から遠い・移動が不便 (4.4%)
(6) 勝山スポーツセンター	利用率 14.9% (回答者内割合)	2.72	4. 自宅から遠い・移動が不便 (3.9%) 3. 駐車場が足りない (2.2%) 5. 施設が古い・汚い (1.1%)
(7) 勝山運動公園	利用率 18.8% (回答者内割合)	2.74	4. 自宅から遠い・移動が不便 (6.1%) 5. 施設が古い・汚い (2.2%) 6. 設備・用具が使いにくい (2.2%)
(8) 勝山健康増進施設 水夢	利用率 7.7% (回答者内割合)	2.69	4. 自宅から遠い・移動が不便 (6.6%) 1. 利用料金が高い (3.3%)
(9) 美甘グラウンド	利用率 1.1% (回答者内割合)	2.50	4. 自宅から遠い・移動が不便 (2.2%)
(10) 湯原温泉スポーツ公園・ 湯原クライミングセンター	利用率 5.0% (回答者内割合)	2.44	4. 自宅から遠い・移動が不便 (4.4%) 5. 施設が古い・汚い (1.1%)
(11) 平成の森ドーム・ スポーツグラウンド	利用率 4.4% (回答者内割合)	2.80	4. 自宅から遠い・移動が不便 (3.3%)
(12) 蒜山高原スポーツ公園・ 蒜山 B&G 海洋センター	利用率 8.3% (回答者内割合)	3.00	4. 自宅から遠い・移動が不便 (3.9%)
(13) 蒜山ホースパーク	利用率 3.9% (回答者内割合)	3.00	4. 自宅から遠い・移動が不便 (3.3%)

#### 【コメント】

すべての施設で、「4）自宅から遠い・移動が不便」という課題がある。一般市民にとっても同様だが、障がいのある人にとっては特に移動や施設のユニバーサルデザイン化等の利便性の解決が求められる。

## 10. スポーツ環境に関する希望

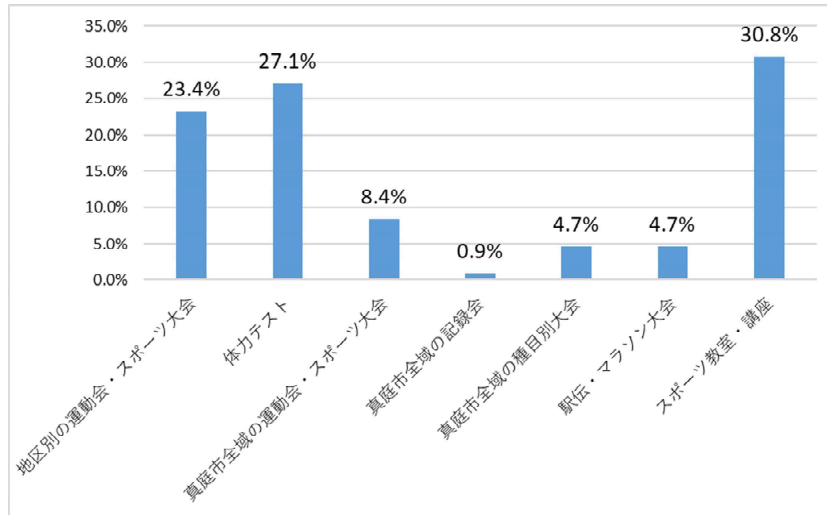
### 1) 整備してほしいスポーツ施設



#### 【コメント】

障がいのある人のスポーツ施設に対するニーズは、一般市民同様、個人化したスポーツライフに適した「自由に遊べる公園」「ウォーキング・ジョギングコース」が突出している。

## 2) 参加したいスポーツ行事・イベント

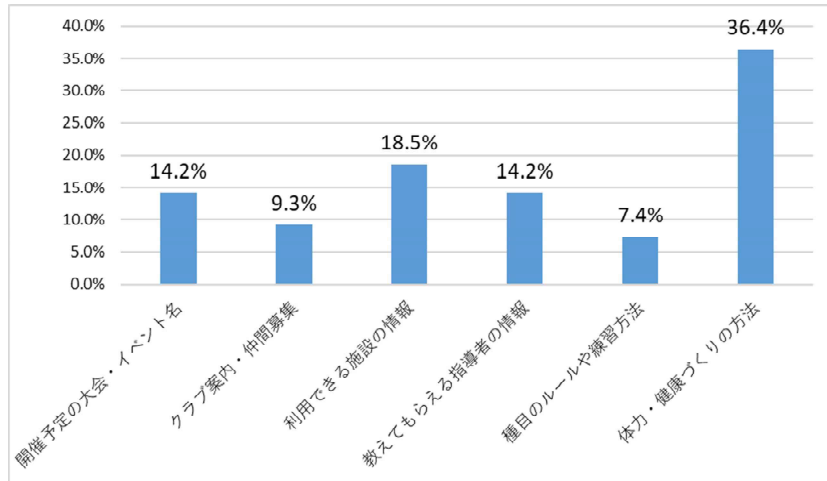


### 【コメント】

障がいのある人が参加したいスポーツ行事・イベントは、スポーツ教室・講座や体力テストといった個人で参加するプログラムと、地区別の運動会・スポーツ大会である。

この傾向は一般市民と同様であり、地区別のイベントに一定のニーズがあることは注目されるべきだろう。

## 3) 提供してほしいスポーツ関連情報



### 【コメント】

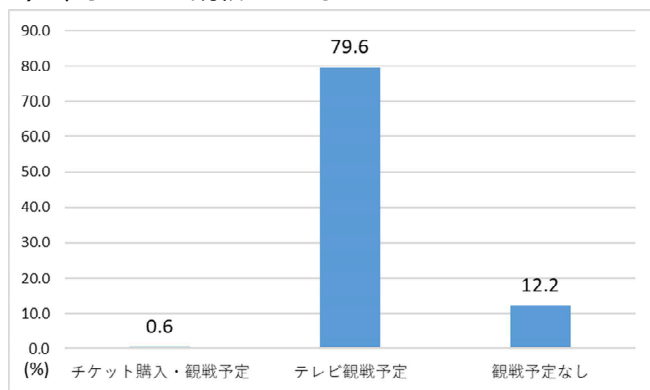
障がいのある人が提供してほしいスポーツ関連情報は、体力・健康づくりの方法が突出している。自らの体力や健康に関心が高いことが伺える。

一方、一般市民ほどではないが、スポーツ施設の情報、大会・イベント情報、クラブや仲間募集情報など、自身のスポーツ活動の場を求めるものにも一定のニーズが確認できる。

こうした情報の積極的な広報は市のスポーツ振興上、重要だと考えられる。

## 11. オリンピック・パラリンピックに対する意識

### 1) 東京 2020 観戦について

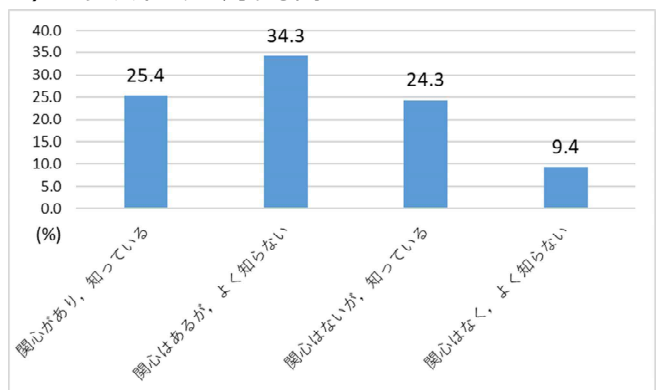


### 【コメント】

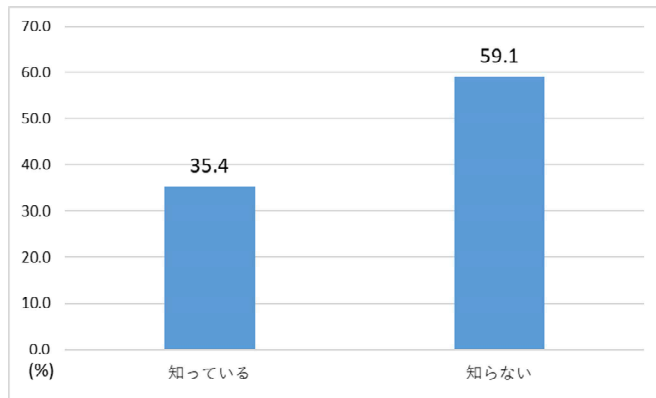
東京オリンピック・パラリンピックの観戦予定については、一般市民と同様の結果である。

パラ・スポーツは障がいのある人にとって関心の高いところであり、一般市民の結果よりも認知度が高い（「関心があり、知っている」と回答した人は、一般市民（16.1%）よりも10%程度高い）。一方、よく知らない人が4割以上おり、認知度向上の施策が必要だろう。

### 2) パラ・スポーツに対する関心



### 3) 馬術・ホストタウンについての認知

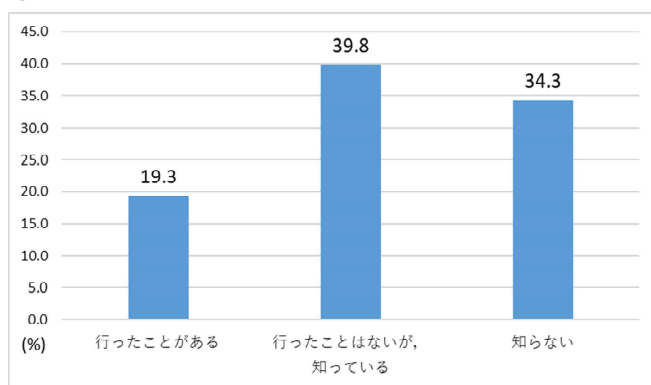


#### 【コメント】

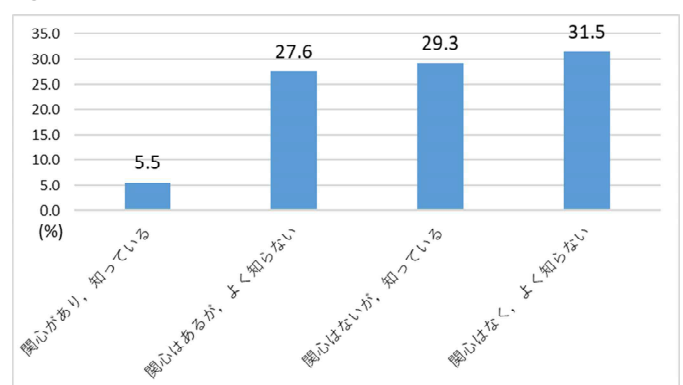
真庭市が馬術の強豪国であるドイツのホストタウンになったことについて知らない障がいのある人が、60%近くいる。馬場馬術がパラリンピックの種目にもなっていることを活かし、東京五輪が一年延期されたことを、認知度向上の機会とすべきだろう。

### 4) 馬術競技について

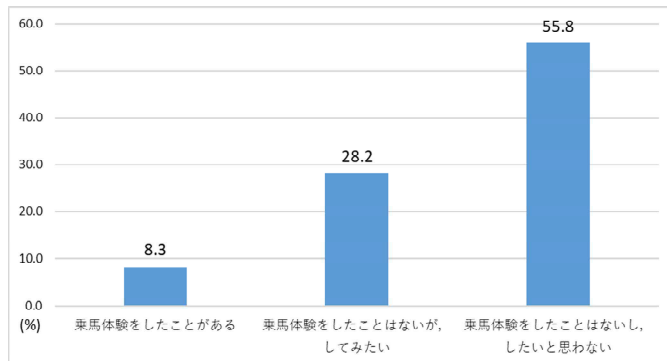
#### ① 蒜山ホースパークについて



#### ② 馬術競技について



#### ③ 乗馬体験について



#### 【コメント】

一般市民と比較し、蒜山ホースパークの来場経験者・認知者は少ない。また、馬術競技についても認知度が低い。

蒜山ホースパークのユニバーサル化を進めるとともに、肢体不自由と視覚障がいの馬場馬術がパラリンピックの正式種目になっていることを活用した PR 施策が打てるかもしれない。

令和元年度 真庭市スポーツライフ調査結果  
(小・中・高校生対象)

1. 分析対象者の概要
2. 幸福度
3. するスポーツライフ
  - 1) 中学生・高校生の運動部活動について
  - 2) 地域スポーツクラブの加入・活動について
  - 3) 運動・スポーツ頻度
  - 4) 地域クラブ加入・活動理由
4. みるスポーツライフ
5. 運動・スポーツ意識
  - 1) 好き・嫌い×得意・不得意
  - 2) スポーツライフ満足度
  - 3) スポーツライフ不満足
6. スポーツ環境に関する希望
  - 1) 運動・スポーツをするための環境整備の希望
  - 2) 整備してほしいスポーツ施設
  - 3) 参加したいスポーツ行事・イベント
7. オリンピック・パラリンピックに対する意識
  - 1) 東京 2020 観戦について
  - 2) パラ・スポーツに対する関心
  - 3) 馬術・ホストタウンについての認知
  - 4) 馬術競技について

調査対象の抽出方法

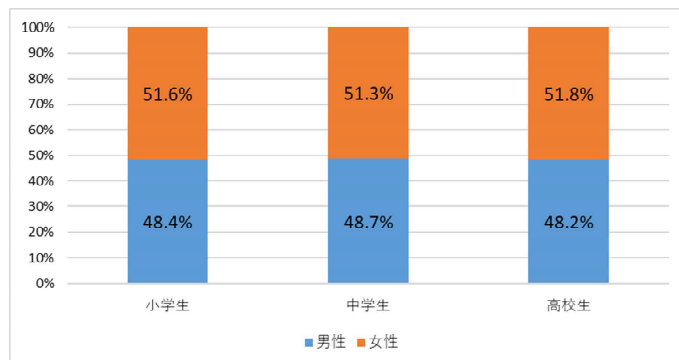
(1) 対象者：

真庭市内の小学5年生・中学2年生・高校2年生

(2) 調査対象者：

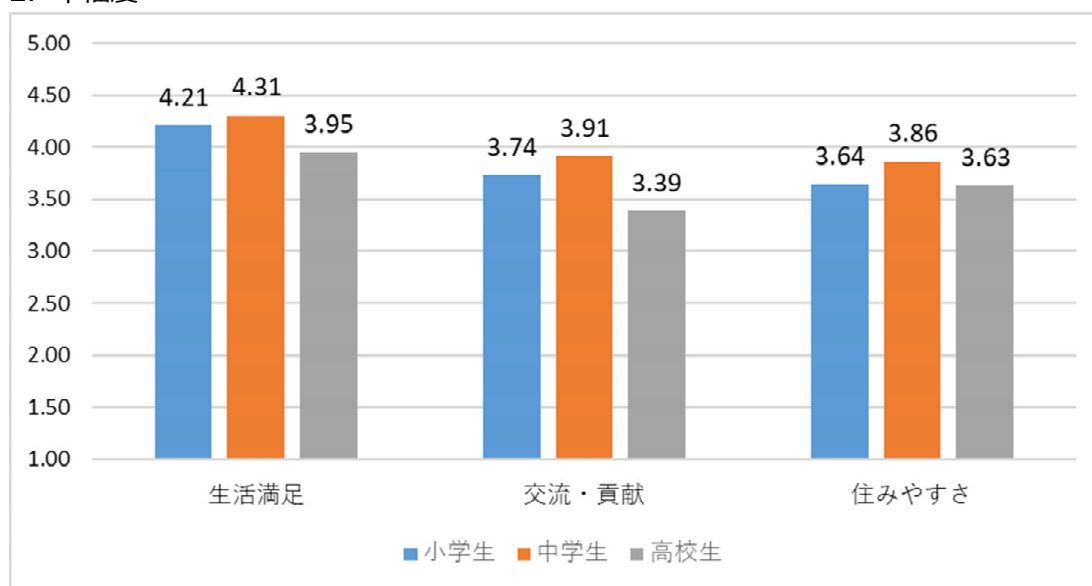
計1069名(小学5年生(388名)、中学2年生(386名)、高校2年生(295名))

## 1. 分析対象者の概要



		学校段階			合計
		小学生	中学生	高校生	
居住地域	北房	n 35	28	19	82
		% 42.7%	34.1%	23.2%	100.0%
	落合	n 119	103	53	275
		% 43.3%	37.5%	19.3%	100.0%
	久世	n 88	99	64	251
		% 35.1%	39.4%	25.5%	100.0%
	勝山	n 49	44	42	135
		% 36.3%	32.6%	31.1%	100.0%
	美甘	n 7	13	6	26
		% 26.9%	50.0%	23.1%	100.0%
	湯原	n 22	17	15	54
		% 40.7%	31.5%	27.8%	100.0%
	中和	n 8	10	3	21
		% 38.1%	47.6%	14.3%	100.0%
	八束	n 26	23	18	67
		% 38.8%	34.3%	26.9%	100.0%
	川上	n 18	12	9	39
		% 46.2%	30.8%	23.1%	100.0%
	その他	n 0	0	48	48
		% 0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
合計		n 372	349	277	998
		% 37.3%	35.0%	27.8%	100.0%

## 2. 幸福度



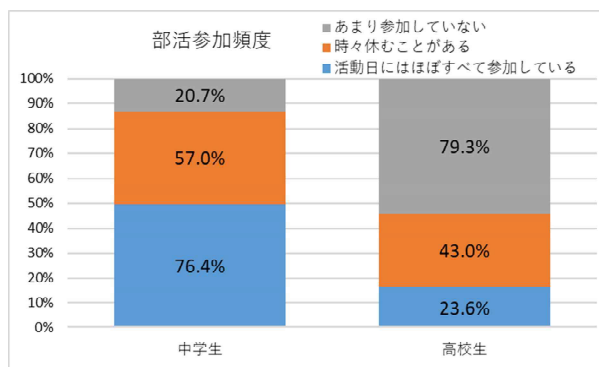
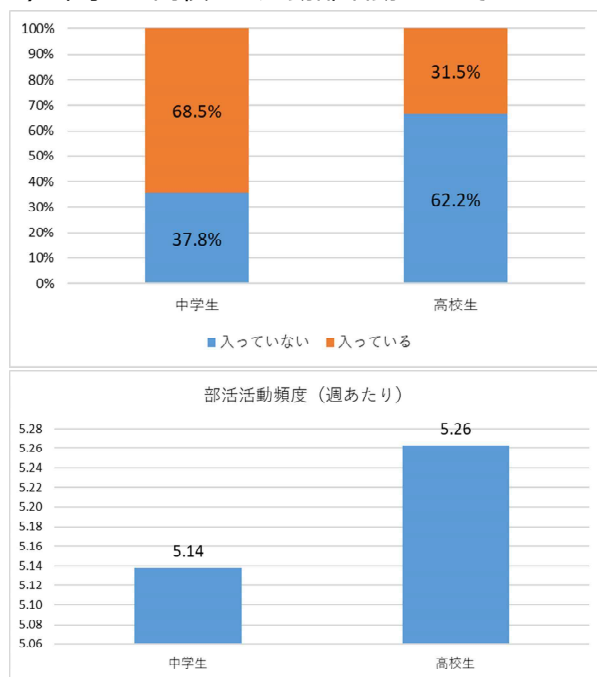
### 【コメント】

幸福度に関わる全ての因子で、小・中・高校生の得点は一般市民よりも高い。

特に、交流・貢献の得点は一般市民の得点（3.13）を大きく上回っており、学校という集団で生活することの効果が出ている。

### 3. するスポーツライフ

#### 1) 中学生・高校生の運動部活動について

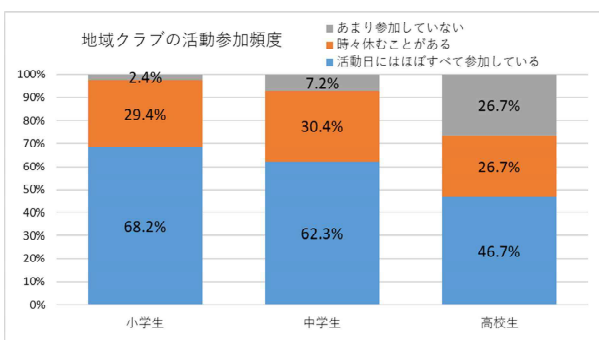
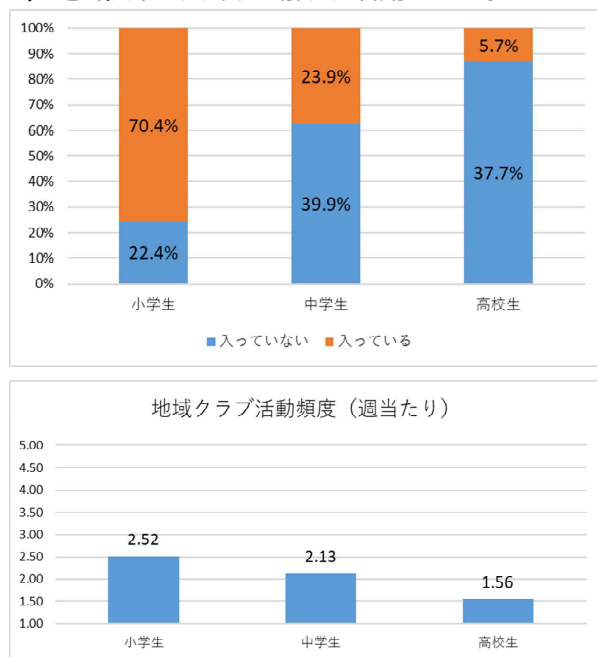


#### 【コメント】

真庭市の中・高校生の部活動加入率は、全国平均（中学校 71.4%，高校 54.6%：文部科学省による実態調査報告書・生徒対象調査結果）と比較して大きな差はない。

高校生の活動頻度は週 5 日を若干超えるが、実際の参加頻度は低く、あまり参加していない生徒が 8 割もいることは、運動頻度と生徒指導上の観点から課題と言えるだろう。

#### 2) 地域スポーツクラブの加入・活動について

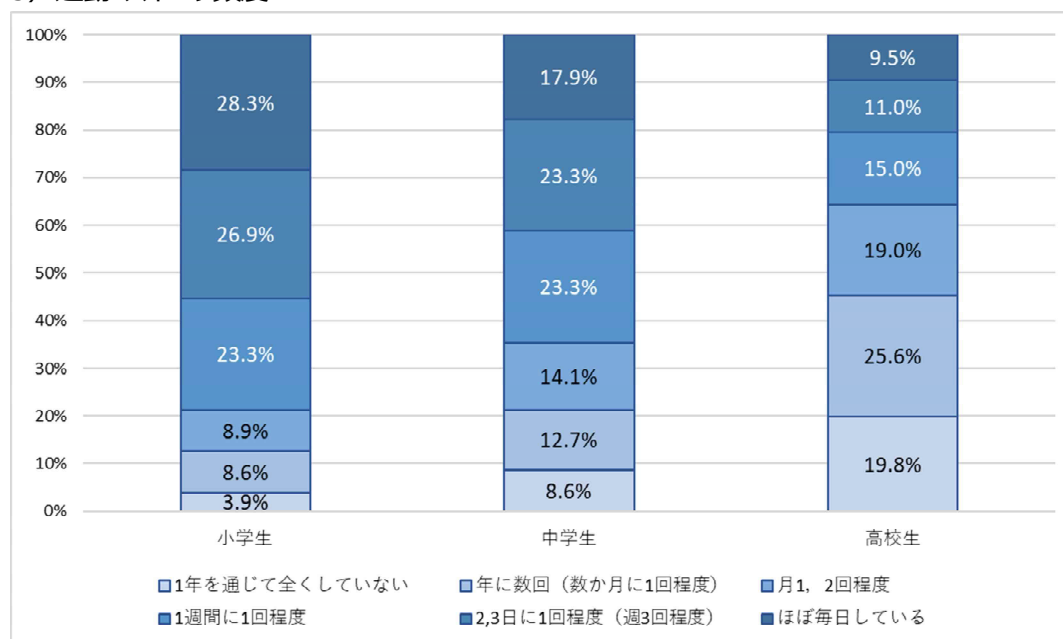


#### 【コメント】

地域スポーツクラブ加入率は、学校段階が上がるにつれて低下している。

ここでも、高校生の「あまり参加していない」者の割合の高さが顕著である。

### 3) 運動・スポーツ頻度

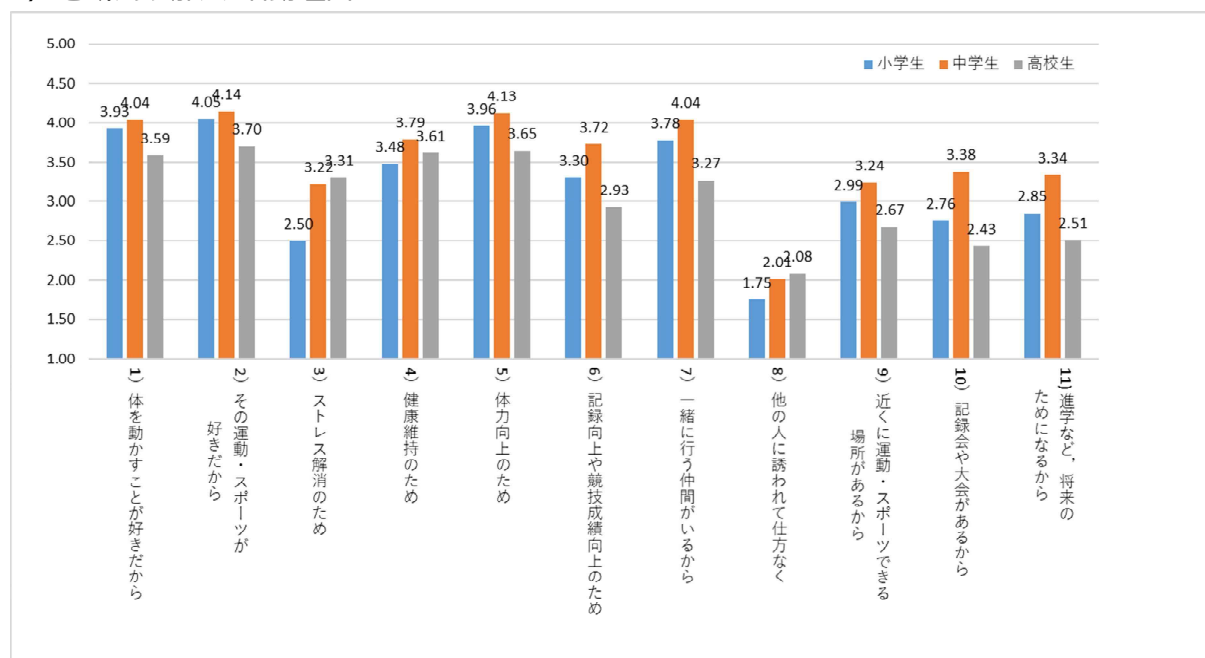


#### 【コメント】

運動・スポーツ頻度は、学校段階が上がるにつれて低下している。

特に、高校生の不定期実施者（「1年を通じて全くしていない」、「年に数回（数か月に1回程度）」）の割合は4割を超えており、高校生の運動不足が懸念される。

### 4) 地域クラブ加入・活動理由



#### 【コメント】

小学生・中学生は、多くの地域スポーツクラブへの加入・活動理由を持っていることが分かる。

7) 一緒に行く仲間がいるから、という理由は、運動・スポーツ活動を継続させる上でも重要である。高校生にも同様の参加動機が広まると、社会参加にもつながるかもしれない。

また、3) ストレス解消という理由が中学生以降、高くなるのは、思春期の心の不安定さが影響しているかもしれない。地域スポーツクラブがストレス解消に寄与しているなら意味がある。

#### 4. みるスポーツライフ

小学生	テレビ観戦しない	テレビ観戦する
直接観戦しない	32.5%	40.0%
	122 名	150 名
直接観戦する	4.3%	23.2%
	16 名	87 名

中学生	テレビ観戦しない	テレビ観戦する
直接観戦しない	24.5%	51.0%
	86 名	179 名
直接観戦する	1.4%	23.1%
	5 名	81 名

高校生	テレビ観戦しない	テレビ観戦する
直接観戦しない	33.9%	49.8%
	94 名	138 名
直接観戦する	0.7%	15.5%
	2 名	43 名

#### 【コメント】

みるスポーツライフは、高校生で特に低調であり、全く観戦しない高校生は3割を超える。また、小・中・高校すべての学校段階においてみるスポーツライフは二極化している。

その中でも、中学生の観戦率は高く、部活動が始まる中学校段階にスポーツへの関心が高まっていることが想像される。しかし、高校生になることで起こる何らかの生活の変化が影響して、スポーツ観戦頻度が下がっている模様。勉強等の多忙化が影響しているかもしれない。

直接観戦頻度の低さは、スタジアムやアリーナがないことから、トップレベルの試合が開催されないことが影響していると思われる。トップレベルの試合の誘致・開催を通して、スポーツ観戦文化を醸成することが求められるだろう。

#### 5. 運動・スポーツ意識

##### 1) 好き・嫌い×得意・不得意

小学生	運動不得意	運動得意
運動嫌い	15.2%	0.8%
	57 名	3 名
運動好き	18.4%	65.7%
	69 名	247 名

中学生	運動不得意	運動得意
運動嫌い	17.3%	0.3%
	60 名	1 名
運動好き	20.5%	62.0%
	71 名	215 名

高校生	運動不得意	運動得意
運動嫌い	25.7%	2.2%
	70 名	6 名
運動好き	19.5%	52.6%
	53 名	143 名

#### 【コメント】

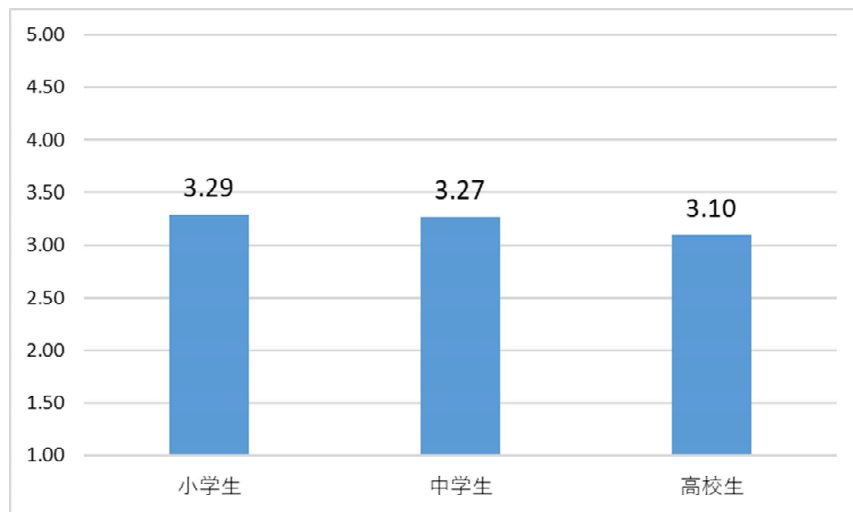
高校生において、【運動不得意×運動嫌い】と【運動得意×運動好き】の二極化が顕著になることは問題である。

このことは、小学校からの体育授業の蓄積や、中学校での運動部活動の影響が大きく、高校だけの問題ではない。

一方、【運動不得意×運動好き】の割合は常に2割程度を維持しており、この層を増やす努力がさらに求められるだろう。すべての子どもたちが運動得意になることは難しい。不得意感を持っていたとしても、運動・スポーツが好きだと感じる割合を高める努力が学校現場に求められるだろう。



## 2) スポーツライフ満足度

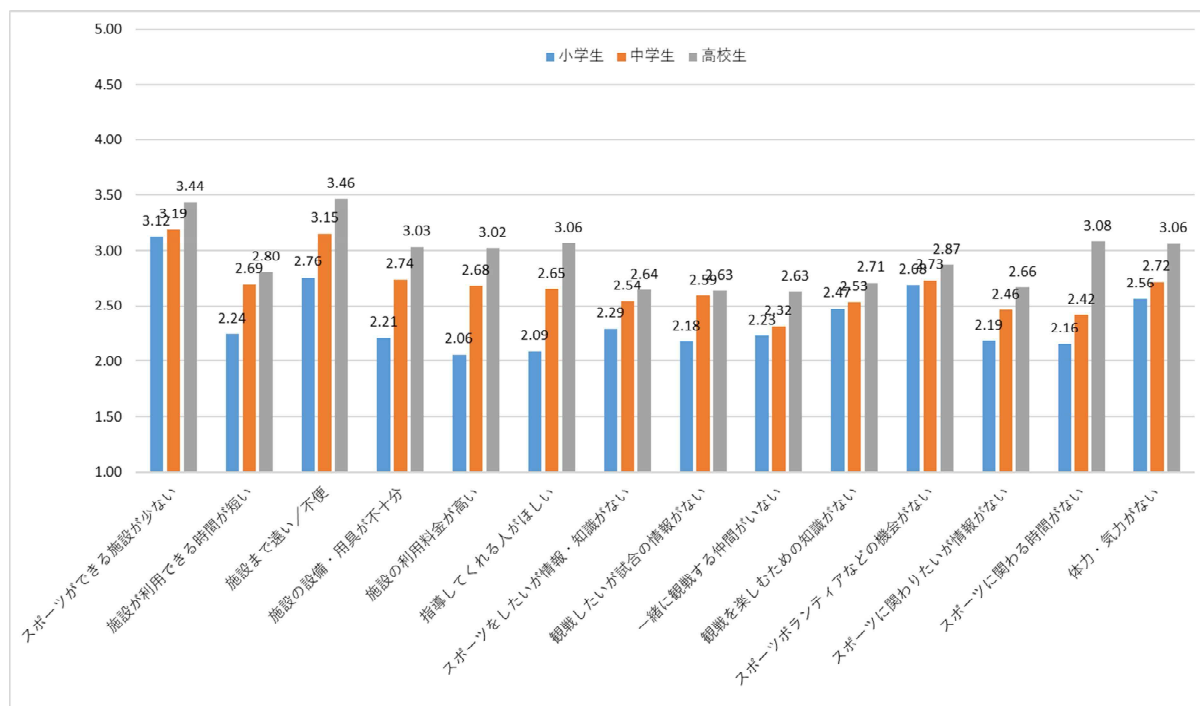


### 【コメント】

小・中・高校生のスポーツライフ満足度は、一般市民の平均を大きく上回っている。

一方、学校段階が上がるにつれて微減する傾向にあり、体育授業や運動部活動、学校体育の行事、地域スポーツクラブ、自由時間の運動遊び、スポーツ観戦機会等を通じて、運動・スポーツに親しむ機会を提供することが求められるだろう。

## 3) スポーツライフ不満足要因



### 【コメント】

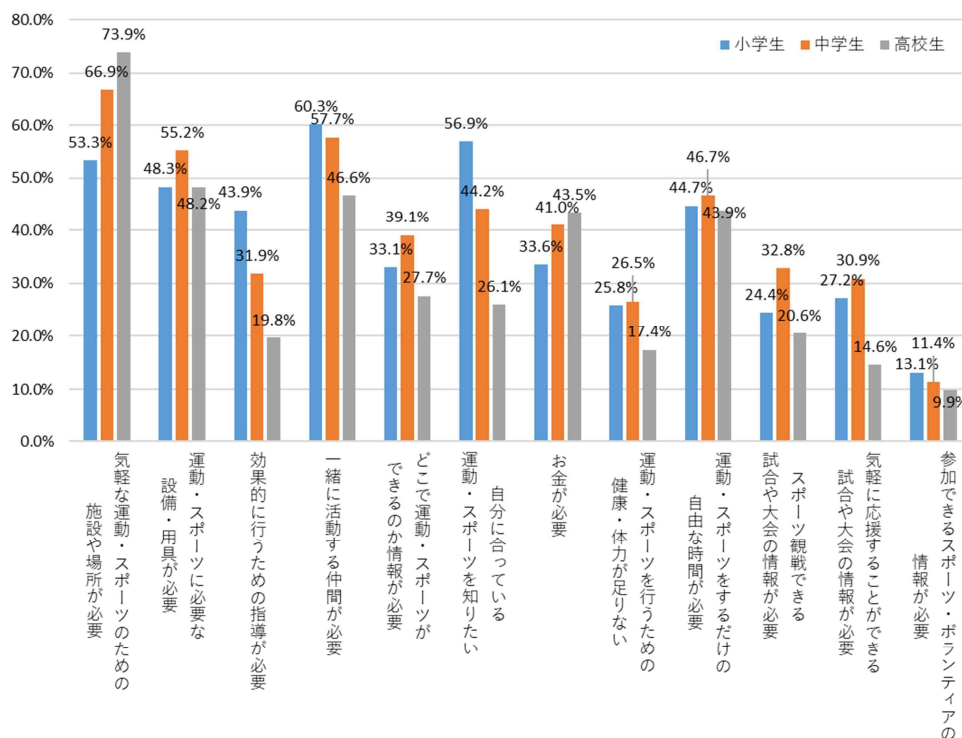
学校段階が上がるにつれて、不満足要因が高まる傾向にある。

特に顕著な要因は、「スポーツができる施設が少ない」というものであり、全学校段階において高い。

学校体育施設だけではなく、小・中・高校生が自由に利用できるスポーツ環境を整えることが課題だろう。

## 6. スポーツ環境に関する希望

### 1) 運動・スポーツをするための環境整備の希望

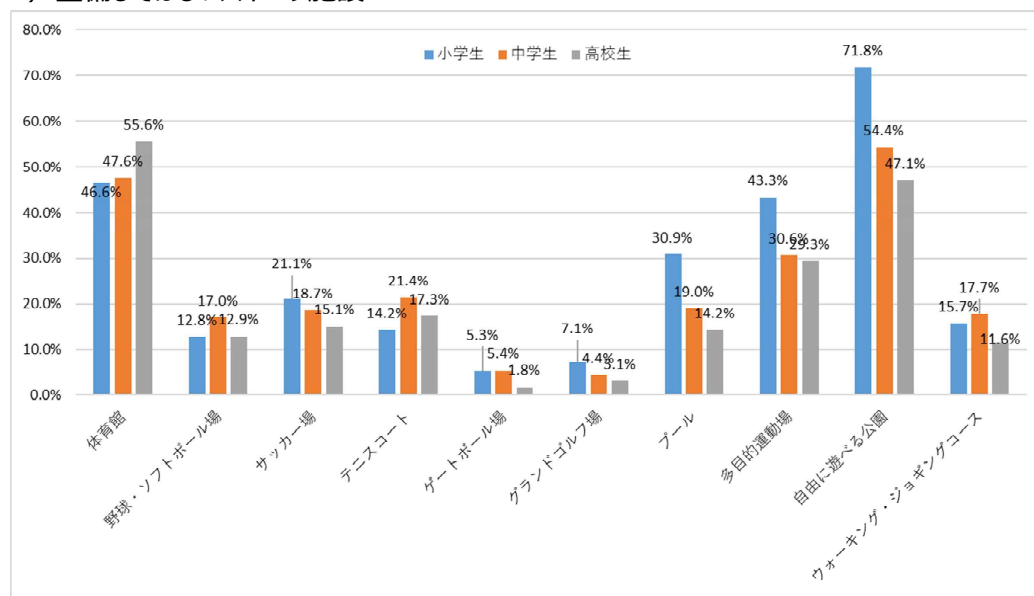


#### 【コメント】

スポーツライフ不満足要因の調査結果でも明らかになったスポーツ施設の不足について、ここでも同様の結果となった。子どもたちは、気軽に利用できる施設・場所を求めている。

また、小学生や中学生は一緒に活動する仲間を求めており、学校と連携した施策が講じられる必要があるだろう。

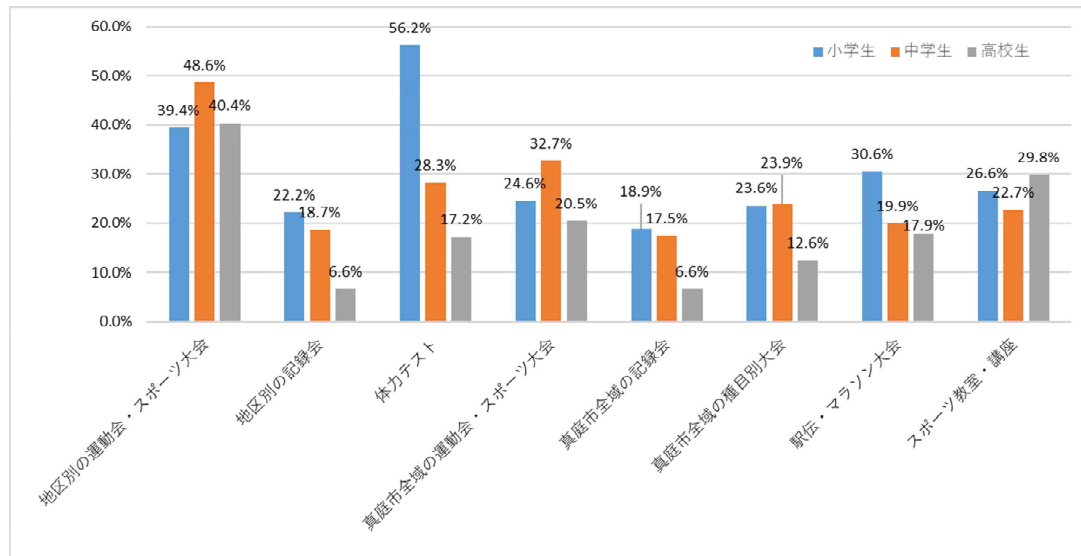
### 2) 整備してほしいスポーツ施設



#### 【コメント】

小・中・高校生にとって、体育館と自由に遊べる公園のニーズは極めて高い。アクセスのよい近隣地域に遊べる公園を整備することが必要である。

### 3) 参加したいスポーツ行事・イベント



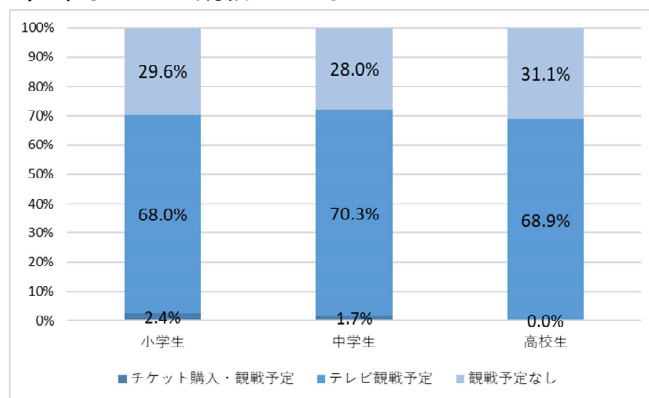
#### 【コメント】

小・中・高校生が地区別の運動会・スポーツ大会に参加したいと思っていることは注目に値する。このニーズは、一般市民にも障がい者にもあることが確認されており、地区のより一層の活性化が求められる。

小学生の半数以上が体力テストに参加したいと思っているのは、学校で実施されている新体力テストが楽しいイベントだったからだろうか。さらなる分析が必要だが、一般市民にも同様のニーズがあり、市としてイベント化することにスポーツライフの活性化の可能性もあるかもしれない。

### 7. オリンピック・パラリンピックに対する意識

#### 1) 東京 2020 観戦について

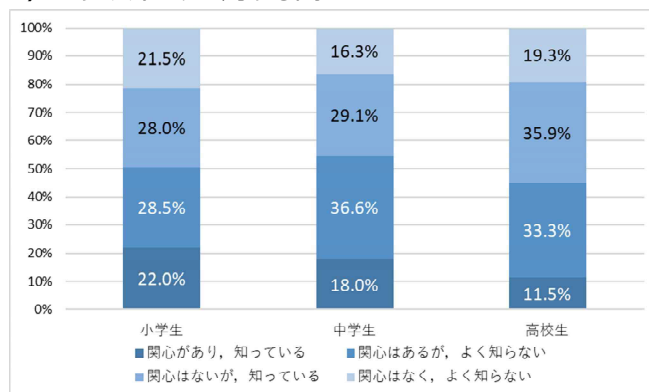


#### 【コメント】

観戦予定なしを回答した割合が3割程度おり、一般市民（12.9%）を大きく上回っている。

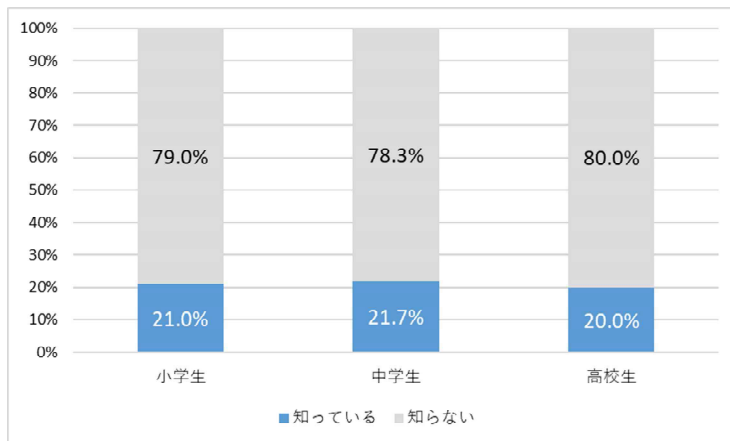
東京オリンピック・パラリンピックはスポーツへの関心を高める上で貴重な機会であり、小・中・高校生の関心と認知を高める施策が必要だろう。

#### 2) パラ・スポーツに対する関心



#### 【コメント】

パラ・スポーツに関心がある小・中・高校生は、5割程度であり、一般市民の割合（59.5%）を下回っている。一方、知っている割合も5割程度であり、一般市民の割合（41.3%）を上回っている。



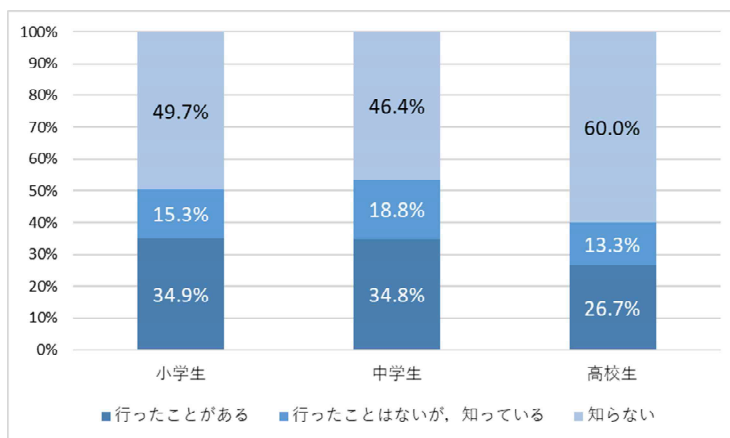
#### 【コメント】

真庭市が馬術の強豪国であるドイツのホストタウンになったことについて知らない小・中・高校生が8割もいることは課題である。

オリンピック・パラリンピックのレガシーを真庭市に遺そうとすれば、子どもたちの記憶に残ることが重要になる。学校と連携した取り組みが急務である。

### 4) 馬術競技について

#### ① 蒜山ホースパークについて

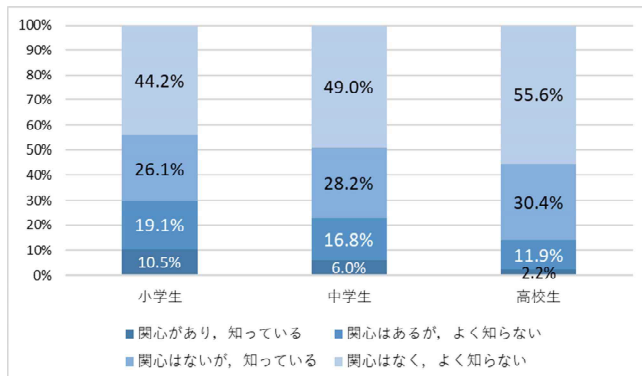


#### 【コメント】

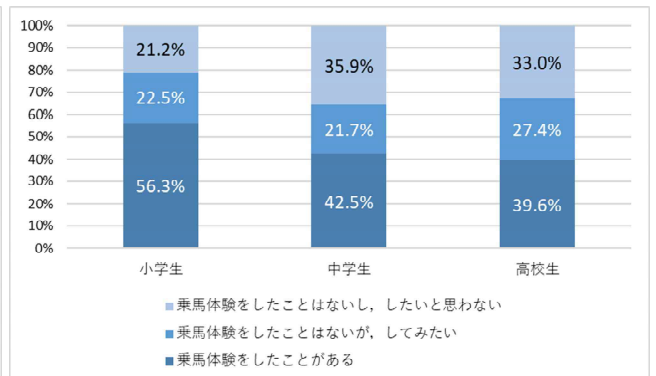
蒜山ホースパークの認知度は、一般市民（71.3%）を大きく下回り、50%程度である。

学校におけるオリパラ教育等と連携したホースパークの周知や利活用が講じられる必要があるだろう。

#### ② 馬術競技について



#### ③ 乗馬体験について



#### 【コメント】

馬術競技に関心がなく、よく知らない小・中・高校生が半数近くおり、関心がない者は7割にも及ぶ。

一方、乗馬体験をしたことがあると回答する小学生は5割を超えており、学校行事での体験が馬術競技への認知や関心につながっていないことが推測される。学校との連携が求められるだろう。